

宮崎大学医学部整形外科

同門会誌

第 19 号
平成 20 年 5 月

宮崎大学医学部整形外科学教室同門会



平成19年度 宮崎大学医学部整形外科学教室 新入教室員歓迎会 平成19年 4月14日 於 宮崎観光ホテル



平成20年度 宮崎大学医学部整形外科学教室同門会 忘年会 平成19年11月24日 於 宮崎観光ホテル



新年度を迎えて

帖 佐 悦 男

昨年度も、地震・台風・竜巻・大雪など災害の多い年でありました。被害に遭われた方々にあらためてお見舞い申し上げます。

さて、新年度を迎え巻頭言を述べます。大学全体としては大学統合、法人化の困難を何とか乗り切ろうとしています。全学の認証評価や医学部の地域枠などの推薦入学制度、コアカリキュラムの進展や国際交流で欧米アジアの大学との交換留学などが進んでいます。一方、医学部附属病院は開院30周年を迎え増改築工事の第一期工事として、中央診療棟が完成し手術室が稼動しています。本年度は、外来新棟の新築や病院全体の改築が行われます。また昨年末に病院機能評価を更新しました。しかし、新しい電子カルテやベッド数の問題などご紹介頂きました患者さんにご迷惑をお掛けしており申し訳ございません。

教室に関しまして、新入教室員は、4名の新卒後臨床研修医を迎えることができ嬉しい知らせです。有難うございました。レジデントの先生には、夢と目標をもって診療・研究・教育にあたって頂きたいと思っています。臨床に関しては、まず専門医をとり、その後少しずつスペシャリティを考えもちろん研究に専念したい場合、大学院へ進むことも貴重な体験になります。夜間大学院もありますので活用してください。また、皆さんの希望によるセミナーもありますので皆さんで育ててください。次のステップとして自己啓発を兼ね全国・国際的なセミナーなどにも参加し資格を取ることも重要です。また、病院のリハビリテーション部ではスタッフの増

員を行い施設認定を取得し入院患者さんの早期リハにも努めたいと思っております。

新臨床研修制度により、研修医が中央の病院へと集中したため、地方では公的病院・民間病院のみならず大学病院も医師不足のため、関連病院への医師の派遣が不可能となり、地方の病院、しいてはその地域の患者さんに不安な思いをさせることになっております。整形外科も同様に苦境にたっていますので、何とかこの難局を乗り切るためには教室・同門の先生方のご理解・ご支援が必要であり、今まで以上に協力し合って頂くようお願い致します。また、関連病院への医師派遣に関しましては、新規開業なども加わりご迷惑をお掛けいたしております。

大型プロジェクトである「スポーツ外傷、傷害の病態解明—スポーツメディカルサポートシステムの構築—」を開始しており、学童期運動器検診やメディカルサポートの点でご協力を依頼することがありますがよろしくようお願い致します。もちろん運動に興味のある先生は是非テーマを考えて参加して下さい。本年度は、夏に西日本スポーツ医学研究会と秋に西日本整形災害外科学会を教室で担当いたします。ご協力をよろしくようお願い致します。

最後になりましたが、教室員の和を大切にし、質の高い臨床・研究を実施し、学内外連携を推進し開かれた特徴ある臨床外科系講座として貢献したいと思っております。そのためにも、教室・同門の先生方のご指導・ご鞭撻を、これまで以上によりしくお願い申し上げます。



ご挨拶

河野 雅行

早いもので平成20年の年が明けたと思ったら既に4月です。「光陰矢の如し」の諺が歳を重ねる毎に実感として感じられる様になりました。皆様は如何お過ごしでしょうか？

中東情勢は泥沼化し、発展途上国の好景気にも綻びが見え始め、先進諸国は経済不調に喘いでいます。世界情勢・特に米国の影響下にある我国では政治の迷走、経済の混迷、食生活の不安……等々大きな問題が山積しております。

その様な世の中の影響を受けて医療を巡る情勢は更に輪を掛けて悪化しております。本来、医療・福祉は国民生活の要であり、好不況に関わらず変化してはならない分野であるはずなのに、市場原理主義とやらで可笑しいことになってきております。

病院勤務医待遇改善は理解できますが、勤務医が激務なのは開業医が楽をして、儲け過ぎているのだから、開業医の収入を減らして勤務医に廻すべきだ。等の論理には全く唾然とします。勤務医が疲弊しているのは増員が出来ない診療報酬体制にあり、産科等医師の希望が少ないのは安易な訴訟制度等にあるのであって、中医協委員や厚労省の役人は我国の医療現場が理解出来ていない様です。全く医療現場の分らない人達に我国の医療を任せておいて宜しいのでしょうか？医療政策は高次元から、将来を見据えて執行すべきなのに、この様な案を出す中医協委員は、まともな人達なののでしょうか？過去数年の度重なる診療報酬改悪で医療現場は疲弊しています。

今回改定で、整形外科分野では目の前に少しばかりの餌がばら撒かれて居る様にも見えますが、実績を見ないことには未だ解りませんし、今回は他科に比べて被害が少ないからと喜んでいると、次回はターゲットになる危険性も大です。決して他山の石ではありません。各科の足並みの乱れを突いて来る、将に政府の目論見通りになってしまいます。

我国政治で最大欠点は誰も責任を取ろうとしない事です。医療責任は我々末端の現場が担わされており、司法は建前ばかりで脳天気な判断ばかりですし、役人・国の委員・政治家は馬耳東風の状態です。その様な体制の中では先のK総理大臣、T総務大臣、M信販会社会長等は我国の医療を破壊した元凶として我々の記憶に留めて置く必要があります。既に遅きに失したかも知れませんが、何とかしなければなりません。事、地域医療を守る為には百家争鳴では無く、多少の意見の相違は包括してでも関係者が大同団結すべき時と考えます。

このように厳しい医療情勢ではありますが、教室に於かれましては順風満帆な状態で、帖佐教授を中心として、着々と実績を挙げていらっしゃいます。

同門会には特別な行事は入っておりません。通常業務を滞りなく消化しております。今後は同門会活性化の為に、若い先生方に同門会運営に積極的に参加していただきたいと考えております。意欲の有る方は幹事の先生に申し出てください。

目 次

ご 挨拶	河 野 雅 行
巻 頭 言	
新年度を迎えて	帖 佐 悦 男
随 想	
無事退職	伊 勢 紘 平 1
診 療 雑 感	山 口 一 郎 3
随 想	松 岡 知 己 4
2003年12月	松 元 征 徳 5
私の人生	渡 辺 雄 9
第6回ラグビーワールドカップに帯同して	田 島 卓 也 11
医 局 長 挨 拶	
医局長挨拶	関 本 朝 久 15
第2回宮崎整形外科医学奨励賞	
第2回宮崎整形外科医学奨励賞を受賞して ～アドレノメデュリンと私～	濱 田 浩 朗 16
第2回宮崎整形外科医学奨励賞を受賞して	山 本 恵 太 郎 18
関 連 病 院 近 況	
高千穂国民健康保険病院～五ヶ瀬川紀行～	塩 月 康 弘 21
国立病院機構宮崎病院～近況報告～	安 藤 徹 23
宮崎県済生会日向病院	池 尻 洋 史 24
同 門 会 ・ 医 局 行 事	
2007年医局旅行	河 原 勝 博 25
日整会野球大会を振り返って	安 藤 徹 27

第50回西日本整形外科

親善野球大会を振り返って	安藤 徹	28
祝 全国大会2年ぶり2度目出場!!		
日本整形外科学術集会サッカー大会		
九州ブロックC予選会	山本 惠太郎	30
第16回同門会ゴルフ大会	園田 典生	32
第10回同門会テニス大会(優勝)について	松本 英裕	33
麻雀大会優勝	河野 雅行	34
第3回帖佐杯ゴルフ大会優勝について	益山 松三	35
新入会員紹介(賛助会員)		
自己紹介	菅田 育穂	38
賛助会員入会にあたり	福島 正明	39
新入会員紹介(正会員)	梅崎 哲矢	40
	日吉 優	40
	深尾 悠	41
	山口 志保子	41
同門会総会議事報告		42
教室同門の研究業績		44
編集後記		61



無 事 退 職

伊 勢 紘 平

平成20年3月31日を以って無事に退職する事が出来ました。平成5年1月1日より15年間に亘り、医局よりのご援助をいただきながら、勤務医としての役割を果たせました事を心より感謝しています。この15年の間に工藤先生をはじめ浪平先生、坂本先生、飯干先生、浜中先生、有住先生、吉田先生、勝鷹先生、市原先生と一緒に勤務させて頂き、更には帖佐先生をはじめとする多くの医局の先生方へ手術の応援に来て頂き、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。熊本の地で苦勞して貰った同門の先生方には本当に御気の毒な感じがしましたが、田島教授をはじめとする医局のバックアップがあったればこそと思っています。私達が医局に在籍していた頃は、毎年何名かの新人医局員があり、少ない人数ながらも医局の人事を何とかやっていたと思います。

この2～3年の間に新しい研修制度の弊害が出て来たように思われます。

厚労省の医局に対する誤った認識の為に、一生懸命に地域医療を考え、医師の派遣を考えて来た制度がこわされた事には憤りを感じていますが、若い先生方の医局に対する考え方もまた変化したのかも知れません。医局に所属しなくても何とか出来るという考え方が増えたものと

思いますが、私のような年齢になりますと本当に医局あつての私の医師活動であつた気がしますが古い考え方でしょうか？

勤務医としていても応援を出して頂いたのは医局ですし、開業された同門の先生が病気の時も必死で守ってくれたのは医局ではないのかなと思っています。また医局に入ると自分のやりたい事がやれないと言つた若い先生方もおられるようですが、入局の際は自分は何をやりたいと言えば教授をはじめ医局のスタッフは希望に沿えるように考えてくださったような気がしています。現在も多くの同門の先生達が勤務医としていろんな所で頑張っておられますが、今後も是非皆で助け合つてゆける整形外科同門会であつてほしいと思います。以上が同門に対するお願いですが、次はこの年になりまして感じた方を述べておきたいと思います。医師としての考え方ですが、私は医師という職業は半分以上ボランティアとしての心構えが在るものと思っています。唯これは医師のみでなく、医療に関係する職種の人すべてに共通するものです。私が、医学部に入学した時に母から言われた事ですが「医者は綺麗にもなれるし、汚くもなれるから綺麗になりなさい」と言われた事です。これは今考えると人間としての生き方の問題と

思いますが医療は金の問題ではない事が多いという事であろうと勝手に解釈しています。勿論医療に対する正当な報酬は当然ですし医療に携わっている人々が安心して生活出来ることは必須の事です。その上で人の為に、また人の命の為に働く事の大切さをかみしめて頂きたいと思っています。

退職にあたりましての寄稿が何やら変な随筆になりましたが、本当にありがとうございました

た。宮崎医科大学で、また宮医大整形で、また宮崎県下の病院の先生方にも、大変御世話になりました事に御礼を申し上げます。

今後もまだ宮大整形の一同門医として医師としての仕事は求められれば頑張っけてゆくつもりですので、今後もよろしくお願ひ致します。

最後に同門の皆さん方のなお一層の御発展をお祈り致します。

皆さん熊本へ遊びに来て下さい！！



診療雑感

山口 一郎

4月より、診療報酬の改訂や、ガソリン等にかかる税金の変更など、世の中の動きが、加速度的に変化し、追いついていくのも大変な時代となりました。診療のあい間に、患者さんの話を聞いていると、いろいろ考えさせられる事が多い毎日です。

ある患者さんが、いつも通っている内科医院へ行った所、待合室は空いていて「患者さんが少ないなあ。」と思っていると、「今日は心電図をとります。」とNsに突然言われました。びっくりして、「人違いじゃないですか？私、心臓は悪くないです。」と断った。しかしNsは、嫌な顔をして、先生に報告に行き、帰ってきて「やはり必要だから検査します」という事でした。そこまで言われれば、むげに断るのも変なので、検査を受け、診察をしてもらったそうです。異常ナシというお墨付きをもらったものの、「何かスッキリしない。」と話していました。最初に診察をして、「心電図が必要ですから、検査します。」との説明があれば、誤解されなくて済んだと思われます。

別の患者さんの話。医療に詳しい人で、御主人がかかりつけの医院に行き、いつもの薬を処

方してもらって帰ったそうです。夫に領収書を見せてもらった所、外来管理と療養指導が加算されていたので、「5分以上、診察してもらったの？」と尋ねると、「いつもの通り、先生には会わず、血圧を計ただけ」との事、「よっぽど、電話して聞いてみようかと思いましたが、長くお世話になっている所なので、やめました。」との事でした。

また別の患者さん。行きつけのガソリンスタンドへ行き、そこの店員（若い女の子）に「今日からガソリンは下っているのでしょうか？」と聞くと、「ハイ」と返事したので、「では、満タンでお願いネ」と頼みました。給油が終わり会計票を見ると、今まで通りの料金請求が書いてあったので、びっくりして、「あんた、さっき下ったと言ったでしょう！」と抗議をしたら、また「ハイ」という返事でした。しかし、その後は無言で、訂正もしてくれず、しぶしぶ料金を払い、当院へ来たようです。「今度、社長に会ったらいつけてやる」と息まいていました。

これからの時代は、インフォームドコンセントが、益々大切であると思いました。



随 想

コーヒーコーディネーター
松岡 知己

今の時代を思うと、テレビ、インターネット、雑誌、新聞などで大量の情報が流れています。事件、環境、政治、健康など多岐にわたり、延々と報道されますが受け取った者はそれに対し何をなせばいいのか、方策に苦慮することが多いと思われます。

たとえば、地球温暖化でCO₂排出削減のため原子力発電を推し進める方針が日本ではありますが、ドイツなどは原子力発電を全廃する方針だそうです。確かに原子力発電ではCO₂の発生は少ないですが、高温になった原子炉の冷却に大量の海水が使用され、気温上昇に比べ海水温の上昇が日本近海、特に原発集中域の日本海側では高いのが現状です。海水温が高いと海中に溶け混んでいるCO₂が大気に放出され、また海水温が上がることで氷が溶けて海面が上昇し陸地減少、台風などの多発、巨大化が異常気象もたらす可能性が高いのに原子力発電はCO₂排出が少ないと推し進める状態、何のためにCO₂排出削減するのかをすり替えて報道され、また電力の消費を抑えるためのコマーシャルを流しながら深夜まで、大型テレビへ放送を続け、消費電力の多いパソコンでインターネットに24時間切れ目なく配信されるECONな情報を異論もなく継続して環境に配慮しているつもりでいる。高々3%程度ガソリンに混入するためのバイオ燃料を作るために命の糧となる食料を転作し、CO₂の吸収を行っている熱帯雨

林の木々を伐採し広大なバイオ燃料のための畑を作る。なぜ3%の燃費向上させるエンジン、機械を求めないのか、食料自給率39%の国で40数年も減反政策継続されるのか、できないことでなく、やらないことが当たり前となっている状態、今の日本に必要な本当の構造改革はなにか、専門の方は論じているのに党利党略、既得特権の維持のために手をつけず、そのつけを未来に押しやりその場しのぎになっていないのか不安だけ残る状態と思われる。

日々の自分の診断、治療においても補助診断である画像診断の進歩でわかった気になっていて、必要な診断力は伴わないままの状態ではないのか、見えるからこそ見えなくなっているものがないのか、そんな葛藤があります。

そんな時はゆっくりとコーヒーでも飲みます。

コーヒーの入れ方についてコーヒーは入れる前に粉にしましょう。贅沢に粗挽きで多めに、入れる道具はドリップ式がお勧めです。水は軟水（日本の水はほとんど軟水です）で沸騰させて少し冷まし（96度程度）、細口の注ぎ口からゆっくりと、お湯が暴れると雑味が出ます。手早くろ過してうまみだけを出しましょう。最後までは抽出せずに（最後の1滴はコーヒーでは悪魔、紅茶は黄金です）温めていたお気に入りのカップに注ぎ口に運ぶ際は60度程度になるようにしましょう。



2003年12月

松元 征 徳

中年男の休日の朝は早い。今日も日の出とともに、少し肌寒い庭に出た。自慢のオーバースーディングは緑色に輝き、私は四つん這いになって雑草をむしった。

「パパ、何してると？」いきなり背中に抱きついてきた息子とそのまま転がるように芝生の上に大の字に寝転んだ。二人で笑いながら、大空を見つめながら、草の匂いに春を感じていた。笑い声に起きてきたご機嫌ななめの娘が、「パパ、今日何して遊ぶ？」

私は、二人に「今日はパパの大好きな友達から作文の宿題を頼まれたから、早く終わらせて、昼から海に行こう」と言ってしまった。「いいね～、それまで、宿題とお手伝いしてくよ」

さ～大変だ、私は芝に水をまくとあわてて、机に座った。

2003年12月の福岡は寒かった。異常な寒波で都市高速が何度も遮断された。

がんセンターに向かう拓哉（以下すべて仮名）は、車のナビを見つめながらももう2時間は運転している。約束の時間をだいぶ過ぎてしまった。拓哉は少し重い資料を抱えて小児科外来に走った。「大変でしたね。雪大丈夫でした？」小児科部長の永友先生は笑いながら待っていてくれた。拓哉より少し年上であるが小柄で童顔なため、拓哉は何度も無理な相談をお願いしていた。

「先生、今の息子のデータですが、細胞内脱水が進行して、アルブミンが10以上でBUNは100です。」

「先生、いやお父さん、そのことは大学病院のほうから、連絡もらってます。ただ、まだ透析は適応ではないですよ。」

拓哉は外科医であった。彼の息子のまーくんは連日の輸血でどうにか生かされていた。しかし、その輸血で総たんぱくは検査値上限を振り切っていた。大学病院で拓哉は透析か交換輸血かを主治医に話していたのだ。

拓哉はバックを開くと、「この資料は日本人のHLA抗原、DNA検査分類と頻度をまとめましたが、単純に掛算しても息子と適合するドナーは非常に稀で、今のコーディネートの仕組みでは何年かかるか？」HLA抗原のA, B, DR1対それぞれの6抗原（血清型）で一致したドナーの中で、たった3人が選択され移植コーディネートが開始される。各抗原のDNA検査でさらに細かいアレルを調べてDNA型での完全一致を目指す。ただ、なかには1%以下の稀なアレルもあり、まーくんにもあった。また、2003年は生体肝移植でドナーが初めて死亡した年でもあり、途中でドナーが辞退していた。当時、まーくんの確実な治療法は骨髓移植しかなく、時間もなかった。しかし、長期輸血による副作用がでているまーくんには、これ以上ドナーを

待つことは限界であることを拓哉はわかっていた。

拓哉は、今まで何度か夢にうなされていた。その夢は目が覚めてもくっきりと思い出され記憶されていった。それは、地雷原の中を息子が歩いている、何度も地雷を踏み血だらけになっては倒れる、そしてまた、歩こうとする。抱きしめて外に出してあげたいが、何もできない。まーくんの血小板は輸血しなければ、5000以下であり、毎朝の採血結果で10000を維持できず、日赤の輸血はいつも緊急を要していた。毎日が死の恐怖と向き合っていた。

拓哉はまた、バックから資料を出した。「日本中の臍帯血のHLA分析をしました。北海道バンクにHLA一致の臍帯血がひとつ、関西に1座不一致ですが細胞数十分なのが見つかりました。」

「そうですか。これは、まーくんの病気の臍帯血移植の成績です。」というとき永友先生は引き出しから準備していた資料を机にひろげた。「全国で10例程度ですが、これをどう考えるかです。しかし、今は私もお父さんと同じように考えていました。」それから、いろんな危険性、合併症の話があったと思うが、拓哉はすっきりしていた。老朽化したがんセンターの窓をたたきつける北風の音を聞きながら、「今夜が山でしょう。」「今後、意識がもどるかどうか」「今度出血したら、手術はできません」・・・拓哉は今まで聞いた多くの医師からのムンテラと、それまでのまーくんのがんばりを思い出していた。そして、やっと地雷原から脱出できる、病気と闘える直前までたどり着いたことを実感していた。「ATGは出血が怖いから避けましょう。GVHD対策はMTXよりステロイドで計画していますが、、、」永友先生の話途中で急き止めるかのように、「先生、一日もはやく臍帯血移植をお願いします」拓哉は頭を下げた。

彼の手を握った永友先生は「来週、転院してください。」と頭を下げた。医師であり父親である二人は強く握手を交わした。

今日は、マリちゃんが骨髄移植を終え、無菌室から一般病棟に帰ってきた。プレールームは闘病中の子供たちで大賑わい。マリちゃんは大きな帽子とマスクで、そして笑顔で登場した。一瞬、子どもたちは黙って凝視していたが、すぐに「積み木しよう。」「絵本読んで」「マリちゃん、こっちきてよ」・・・拓哉はマリちゃんの変わり果てた姿にまだ、声が出ないでいた。抗がん剤と放射線で皮膚は黒くなり、髪は抜けおち、ガリガリに痩せていた。ただ、子どもたちは心で通じあっている、容姿なんかまったく構いなしに遊びまわっている。

「浣腸～」「いて～何すつとか」拓哉は尻をひっこめて笑った。ステロイドでムーンフェイスの隼人君が笑いながら、「まーくんのパパ、変なおじさんやってよ」と急かしてきた。

「わかった、俺が変なおじさんで鬼になるから、鬼ごっこするか」ワ～っという叫び声とともに、子どもたちが走りまわっている。その中を拓哉は思いっきり志村けんになって追いかけていた。「もう、みんな危ないでしょう。小さい子もいるんだから」面倒みのいい中学生のジュンね～から怒られた。いつも、まーくんと遊んでくれるジュンね～に拓哉もタジタジであった。彼女は脳腫瘍で何度も再発していた。左目は腫瘍の圧迫で視力がなく、それだけでも不憫なのに眼球が突出してきたため眼帯をしていた。左の頭にある手術痕がまーくんと同じで、手足の麻痺も似ているから、いつも二人で仲良く遊んでいた。まーくんが脳出血で大学病院に救急搬送されて、4ヵ月ぶりのがんセンターだが、闘病している子どもたちの生命力と無垢な心にいつも元気を

もらっていると拓哉は感謝していた。「おじさん、まーくんの治療（移植）はいつなの？」「たぶん1月だと思うよ」「そうか、じゃ春にはお家に帰れるね」GVHDで少し長めに入院している隼人君が笑って教えてくれた。「あそこの部屋（無菌室）で治療すると、病気が治って、そのままお家に帰るか、僕みたいにこっちで様子見てから、お家に帰るんだよ」先輩の隼人君はよく知っている。

「私ね、明日からあの部屋に入れるんだ」いきなり、エリカちゃんが自慢げに話しかけてきた。

「そうか、いいな。がんばれよ。」拓哉は、いつも大きくなったら看護婦さんになりたいと夢を話す年長さんのエリカちゃんを強く抱きしめた。拓哉は、どんなにその治療が苦しいのかを知っていた。そして、隼人君の知らない無菌室からそのままお家に帰った天使たちを思い出していた。まーくんが無菌室に引っ越した。無菌室の入口では、他の親が体中に消毒スプレーをまき、鼻から消毒液を吸って、口から出す操作を繰り返していた。その横で、拓哉はいつも以上にうがいと手洗い、そしてガウンをきて中に入った。小さな小児ベッドでは、まーくんと妻がくの字になって仲良く寝ていた。妻の静香は6月から息子のそばでずっと一緒に入院している。

「おい、静香、起きて」「ごめん、寝てた。もうこんな時間なんだ。」静香は時計をみながら、小児ベッドの柵を下ろし、まーくんの目が覚めないように上手に起き上がった。

「まーくんのオムツと大好きなお菓子、ジュースを買ってきたから。静香、お前、息抜きにゆっくり外食しておいで」「そうね、あと少しで無菌食になるし、今のうち、まーくんの好きなものを買ってくるよ。」風邪をひかないように静香は防寒着とマスクを装着した。いつも、そう言ってゆっくりできずに帰ってくる妻に「本当にゆっ

くりしてこいよ」と見送った。

拓哉は、まーくんの寝顔をみながら、少しウトウトしていた。移植センターのナースがいつもより慌ただしいのが気になった。そして、時々大きな高い泣き声と低いうなり声が拓哉の耳に入って目が覚めた。「痛いよ、痛いよ、、、」確かに子供の声だった。拓哉は心の中で祈った、頑張れ、神様どうか助けて下さい。

「ごめん、拓哉、待った？よかった、まーくん起きなかったね。」「なんで、もう少しゆっくりすればよかったのに」相変わらず、妻は早く帰ってきた。

「静香、誰か調子悪い子がいるのかな？」「うん、エリカちゃんがGVHDがでてるみたい。けど、大丈夫だよ。だって、エリカちゃんのドナーは完全一致のパパなんだから」確かに、拓哉は思った。父親とHLA完全一致で早くに移植ができるエリカちゃんは幸運なんだから大丈夫だと。

数日が過ぎた。その日も、外は寒かった。拓哉はいつも通り無菌室にむかった。手洗い場は二つ、大きな男が二人、拓哉ともう一人、お互い軽く顔を合わせて挨拶した。その刹那で、拓哉はすべてをわかった、わかってしまった。もう一人の男は拓哉の横で何回も手を洗った、繰り返し、そして、その手で涙を拭いては、また手を洗った、大きな肩を震わせて、泣き声を漏らさないように、拓哉は彼がエリカちゃんの父親だと悟ったが、声かけられなかった。自分の骨髓液が溺愛する自分の娘の体を痛めつけている。静かに拓哉は息子の病室に入った。何も知らないまーくんが、「パパ、パパ」と笑っている、その横で妻が涙目になって拓哉を見つめている。隣の部屋のエリカちゃんと家族の闘っている声

だけが、時々響いてくる。「痛いよ、、、」「大丈夫だからね」もう、頑張るとは誰もいえない、だって充分頑張っている。

その夜は眠れない妻と何度もメールをした。神様とか、天国とか、死や生について考えた。そして、朝、エリカちゃんが、大きくなったらって、いつも笑顔で話していたエリカちゃんが、天使になって天国へ逝った。拓哉は妻に、エリカちゃんはもう痛くないんだよってメールした。

今夜も拓哉は仕事を終え、がんセンターに寄って、一人で閑散としたアパートの部屋へ帰り着いた。明かりを点けると、買ってきたお惣菜と昨日の残りの鍋を温めた。コタツに潜り込んで、暖房が効くのを待ちながら、来年の年賀状を書き始めた。テレビでは年末の特番が流れていたが、あまり興味もなかった。中年男の単身赴任という聞こえがいいが、一度、家庭の温もりを経験した男にとって、明かりのない、「おかえり」のない一人暮らしはさびしいものである。拓哉の一人暮らしも半年近くになり、体重は10kgは落ちただろうか。

闘病は家族の心を少しずつ弱気にさせていくもんである。最初はまーくんの死に目に会えないかもしれない、しっかり息子を見送ってあげなければと決心し、この地に來た拓哉であった。しかし、今では、まーくんに起こる数々の奇跡に拓哉は強さをもらった。温まった鍋をつつきながら、年賀状はいい挨拶文が浮かばないので、妻から送られてきた今日のまーくんのデータをexcelに入力していた。また、落ち着かなくなると、移植の文献を読み漁った。

静かな部屋で大きく携帯がなった。拓哉はドキッとしながら、慌てて携帯の着信を確認した。がんセンターではなく、拓哉の母だった。ホッ

と安心しながら、受話器を取った。しばらくして、小さい声で、「パパ、アイです。パパ、元気？あのね～、パパ、メリークリスマス」拓哉の娘のアイちゃんからだった。拓哉はなかなか、メリークリスマスが口からでなかった。アイちゃんは、まーくんが入院してから、3歳でおじいちゃん、おばあちゃんの家に預けられた。拓哉は父として、アイちゃんには、厳しかったかもしれない。まーくんとママのいる病室には入れなかったし、会う時も手洗いとうがいを徹底した。何より辛かったのが、ママから離す時と、パパがアイちゃんから離れる時。泣き叫ぶ娘に対して、強引に引っ張ったり、時には大嘘をついたり、「なぜパパのいうことをきけないんだ」怒鳴ったりもした。

「パパ、ねえ、パパ」「あつ、ごめん、アイちゃん、メリークリスマス。サンタさんをお願いしたかな？」拓哉は絞り出すように話した。

「うん。パパ、あのね～、お利口さんにしてるから、福岡に遊びに行ってもいい？」拓哉の目から涙が流れて止まらなくなった。話そうとしても嗚咽しそうな口は手で押さえられていた。「アイちゃんはすごく、お利口さんだよ。」その一言もいえないまま、アイちゃんの話す、あのね～から始まる楽しいお話にうなずくだけだった。

「パパ、海行くよ」と叫び声とともに子供たちが、元気一杯に階段を上ってきた。あれから4年以上が過ぎたのかと感傷に浸っているのは私だけだろう。息子と娘は、春休みを満喫している、それだけで最高の親孝行である。

2008年4月



私の人生

渡 辺 雄

63歳になり終盤に差し掛かってきた自分の人生を振り返ってみます。生まれたのは福岡県の門司ですがその後小学から大学までは長崎で育ちました。大学は地方公務員だった父親の勧めで医学部に行きました。大学の時本当に勉強をしませんでした。シェパード犬でジェフと言う名の愛犬と山や海をよく遊び回っていました。学園紛争で授業ボイコット中には勝手にアメリカへ抜け出して3ヶ月余りバスを宿代わりにアメリカやメキシコを旅しました。長崎から東京までサイクリングもしました。五島列島に手漕ぎボートで行こうとして止められた事もありました。大学の成績は最低でしたが学生時代を満喫することができ何とか無事に卒業することもできました。大学卒業後は躊躇なく整形外科にストレートに入りました。医師になってから最初の10年間はとにかく早く整形外科の知識と技術を身につけようと自分成りには勉強したつもりです。何事を習得するにもその道のすぐれた先生の下で習うのが早道と思い、膝や関節鏡は東京通信病院の故渡辺正毅先生の下で1年間、外傷や人工関節は山口県立中央病院の弓削大一郎先生の下で4年間、膝関節移植はカナダのトロントにあるマウントサイナイ病院のグロス先生の下で1年間などと自分の興味のある

所で勉強させて頂きました。開業するまでに宮崎大学も含めて10箇所の病院を廻らせて頂きました。ほぼ私の希望通りの病院で研修をすることができ長崎大学の医局の御配慮に感謝していますが、その恩返しができなかった事が少し心残りです。それぞれの病院では諸先輩や同僚に巡り合い本当にお世話になりましたが、もうすでに他界された先生も何人かおられ、今となつては楽しい思い出ばかりがよみがえり懐かしくてしようがありません。いろいろ考えた挙句開業しましたが、思い立ったらまっしぐらで今まで26年間走ってきました。開業した当初の2年間くらいは患者さんも少なく、暇をもてあまして勤務医時代のネタを元に論文などを書いていましたがその後の10年間くらいは患者さんも徐々に来てくださるようになり、有床診療所から病院に変わったこともあり開業医になって少なくとも肉体的には一番きつい時代でした。40床の小病院とは言え常勤医は私一人で、外来患者は月曜から土曜まで毎日200数十名を診察していました。手術は全麻も自分でかけながら年間200例以上で、外来が終った午後7時頃から始めていました。回診は昼休みに毎日していましたので昼食は摂れない時も多く、食べる時でも10分足らずで済ませていました。

今でもその頃の早食いの癖は直りません。わが
ままな私に付き合ってくれた当時のスタッフ達
にはいくら感謝してもしきれませんし又そんな
大変だった時代も今となつては懐かしい思い出
です。その後は田島前教授や帖佐教授のお陰で
宮崎大学から派遣医師が来て頂けるようになり
徐々に充実した医療ができるようになりました。

今からの残りの人生、またどんな展開が待って
いるかわかりませんが、歳をとって体力、気力
が落ちてきても、医療情勢が厳しくなつてきて
も、どんな事があつても自分に与えられた境遇
を甘受して立ち止まらずに今後も精一杯歩いて
行こうと思います。



第6回ラグビー ワールドカップに帯同して

宮崎大学医学部整形外科
田島卓也

このたび、機会に恵まれ平成19年9月7日よりフランス・イギリスにて開催された第6回ラグビーワールドカップに日本代表チームドクターとして帯同させていただきました。ラグビーワールドカップには世界予選を勝ちあがった20チームが参加し、5チームずつ4つのプールに世界ランキング順に振り分けられました。日本がランキング18位で、オーストラリア（同2位）、ウェールズ（同8位）、フィジー（同12位）、カナダ（同14位）と同じプールBに組み込まれました。本戦に先立ち、8月6日に千葉の山奥にある日本エアロビクスセンターというホテルとグラウンド、



カナダ戦、奇跡の同点の後で

立派なジムが併設された合宿所に選手、スタッフが招集されました。ここで3日の合宿をおこない、10日に東京青山の秩父宮ラグビー場にて壮行試合が行われました。相手は韓国、香港、カザフスタン、中国そして日本の有力選手で結成されたアジア・バーバリアンズでした。これはアジア代表としてW杯に出場する日本代表チー

ムをアジア各国が激励するといった意味合いで開催されました。ちなみにアジア・バーバリアンズのチームドクターは宮崎大学で下肢班帖佐教授御付の中村嘉宏先生でした。同じ医局の先生とこういった形で戦うということに感慨深いものを感じました。試合翌日には赤坂のホテルで壮行会が盛大に行われ（ちなみに日本ラグビー協会会長は森元首相です）、最終合宿地のイタリア・アオスタに飛び立ちました。長いフライ

トを終え、合宿地に着いたのは深夜1時！でも疲れと時差ぼけのため、選手たちもなかなか寝付けないようでした。翌朝、ホテルの近くを歩いてみたら、何とビックリ、周囲には初めて

みる本場のアルプスがそびえており、その光景に圧倒されました。この町はアルプス登山客が立ち寄る小さな町なので、周囲に山以外の娯楽は全くなく、店もほとんどありません。ここで1週間の缶詰合宿とイタリア代表との試合をして、次の合宿地であるトレビゾに移動しました。トレビゾはベニスから1時間の小さな城下町で、

街中に中世の建物や遺跡があるような雰囲気の良い町でした。ホテルから歩いて20分くらいのところに小さな繁華街があり、何回か本場のピザやジェラートを食べに行きましたが、日本人の口に合う味が堪能しました。ここで1週間の合宿とポルトガル代表との練習試合をおこない、8月27日から4日の楽しいオフとなるはずでしたが、この最終戦で予想外のできごとが起きました。何と日本代表不動のエースで右アキレス腱断裂より奇跡の復活を目指していた大畑大介選手が、試合中に逆の左足のアキレス腱を断裂してしまったのです。W杯出場をめざし、あと1週足らずのところでの怪我で、本人の落ち込みようは目を覆いたくなるようでした。また同じ試合でさらにもうひとり怪我人が出てしまったため、楽しいはずのオフは幻と消えて、現地の病院にMRIを撮りに行ったり、治療したり、マスコミ対応に追われたりとバタバタしたオフを過ごしました。今回のW杯ツアーは本当に怪我人が多く出たり、日程的にも過酷なツアーでした。結局大畑選手を含め、途中帰国や選手登録未梢した選手は5名にのぼり、W杯に出るためには実力だけでなくこういった運も必要なんだとあらためて感じました。われわれメディカルスタッフはオフといえども一人でも怪我人や体調不良者がいれば、その治療やリハビリを行うためどこにも行けません。ただ、半日だけ弾丸ツアーでベニスに行ってピザとビールを堪能してきました（ベニス滞在2時間でした）。選手達はこの4日のオフでローマ、ミラノなど思い思いの休日を過ごしたようです。また日本代表の外人選手の中にはイギリスまで遊びに行っていた猛者もいたようです。オフを終え、

8月31日より同じくトレビゾで調整練習をおこない、9月2日にいよいよ決戦の地、フランスへと入りました。キャンプ地であるトゥールーズはフランスの中でもラグビー熱がとてもし土地で、町をあげての歓迎を受けました。しかしながらキャンプ地のホテルは繁華街より車で30分以上かかる場所にあり、完全に隔離された場所でした。そしてこの夜、いよいよ第6回W杯が開催され、開幕戦のフランス対アルゼンチンがパリで行われました。地元の大声援を背に初優勝を目指すフランスをまさかの接戦でアルゼンチンが下しました。この1戦は世界中のラグビーファンに衝撃を与えたと同時に、われわれ日本代表にもよい緊張感を与えてくれました。3日ほどトゥールーズに滞在し、初戦の地であるリヨンにTGVで移動しました。リヨンはフランスの旧都で、日本でいえば京都のようなところですよ。注目度も高く、街中を移動しても地元のひとたちが声援をおくってくれたり手を振ったりしてくれました。初戦の相手は世界ランキング2位のオーストラリア！過去に2回のW杯優勝を誇るまぎれもない強豪です。またこの1戦を観戦しに妻がフランスまで来てくれ



ホテル内のメディカルルームで縫合処置



◎ラグビーマガジン 試合中に負傷した選手をサポートしましたが、こちらも選手のケアで忙しくてなかなか会う時間がなく、結局30分だけホテルで話ただけでした。試合のスタジアムにいた時にはすでに観客は興奮のつぼで、異様な雰囲気でした。今までテストマッチ（国代表同士の試合）には20数回帯同しましたが、やはりW杯の試合は格別でした。異様な盛り上がりの中、国歌斉唱が行われましたが、日本から遠く離れたフランスの満員のスタジアムの中で聞く国歌は不覚にも涙を誘ってしまいました。周りをみわたすと選手もスタッフも涙を流しながら国歌を声を張り上げて歌っており、あらためて日本を背負って戦っていることが再認識できました。試合の方は力及ばず敗戦してしまいましたが、感傷にひたる暇などなく、その日のうちにTGVでトゥールーズに帰還したのですが、ホテルに着いたのは深夜1時過ぎでした。中4日で今回の最大のターゲットであるフィジーとの1戦が待っています。早速翌日から臨戦態勢に入り、フィジー戦に臨みましたが、こちらも後一步まで追い詰めながらSHがふたりとも退場する痛恨のアクシデントもあり、4点差で惜敗してしまいました。この試合に絞って対策を練ってきただけにチーム全体の落ち込み方はす

さまじいものでした。あと2試合残っているのに、気を取り直して調整し、第3戦がおこなわれるイギリス・ウェールズ地方の州都であるカーディフに乗り込みました。カーディフはロンドンから電車で3時間もかかる地方都市ですが、よく日本の釜石と比べられるくらいラグビー熱の熱い土地で、第4回W杯の開催地でもあります。ホテルは繁華街の中にあり、すぐ近くにはショッピングセンターやカジノがありましたが、カジノ好きの私が1回も行かない・行けないうらい忙しい毎日でした。カーディフには両親が夏休みを利用して応援に来てくれました。すでに2敗していることもあり、殺伐とした雰囲気なかで毎日を過ごしていたので、両親と話せたことで（こちらも30分くらいでしたが）、少し心に余裕を取り戻せました。ウェールズ代表も地元の大応援を背に圧倒してきましたが、日本代表も第6回W杯のベストトライ賞にノミネートされるくらいのすばらしいトライをあげ反撃しましたが、力及ばず3連敗となりました。これで日本代表もW杯連敗は15となってしまい、今大会も準決勝トーナメント出場は不可能となりました。残すところあと1試合、カナダ戦に向けて調整したいところですが、ここまで約2ヶ月近く海外での生活、そして度重なる怪我人、慢性的な疲労と日本代表チームは心身ともにボロボロの状態、最終戦の地であるフランス・ボルドーへ移動しました。チームは疲労困憊でしたが、泣いても笑ってもこのチームと一緒に戦えるのはあつとわづかです。われわれメディカルスタッフも最後のメディカルケアに努めました。カナダは大型FWと俊足BKが融合するいいチームで、過去の対戦をみても日本が

勝てる可能性は40%といったところでしょう。また、この試合に負けたほうがプール最下位になるという、まさに生き残りをかけた1戦でした。試合は1進1退の攻防で、最後の最後までもつれましたが、女神が最後に微笑んでくれたので、ラストワンプレーで同点ゴールを決めてそのままノーサイドとなりました。スタジアムはラグビー後進国の東洋の小さい島国が懸命に戦って、体格ではるかに勝るカナダと奇跡的に引き分けたということで、地震のような大歓声で称えてくれました。もちろんわれわれスタッフ・選手もゴールが決まった瞬間に抱き合い・号泣しました。

今大会は17日間で4試合をこなす過酷なスケジュールで、怪我人や体調不良者が多く出てしまいました。毎日朝から夜遅くまで選手の診察・治療・リハビリにあたり、いろいろと苦労が耐えなかった2ヶ月間のツアーでしたが、こ

の瞬間にすべてが報われたような気がします。結果は1分け3敗で予選落ちしましたが、勝ち点3を挙げプールでは4位で終了しました。

スポーツドクターとしてトップアスリートのメディカルサポートをさせていただくことは、貴重な経験で、この上ない喜びです。しかも4年に1回しか開催されないW杯に帯同できたことは、夢がかなった瞬間でした。今回このような機会を与えてくださった宮崎大学医学部整形外科の帖佐悦男教授、きっかけを作ってくださいました柏木輝行先生、矢野良英先生、全面的にサポートしてくださいました関本朝久医局長、渡邊信二前医局長、山本恵太郎先生、留守中に穴を埋めてくださった医局の先生方そして支えてくれた両親と妻・娘には言葉では言い尽くせないほど感謝しております。この貴重な経験を今後の診療そして宮崎県のスポーツ界に活かしていきたいと思えます。



ウェールズ、ミレニアムスタジアムにて



医局長挨拶

関本朝久

この度、本年も医局長を務めさせて頂くことになりました。医局長4年目となり、これまでのように務め上げることができるか非常に不安ですが、精一杯頑張りますので何とぞよろしくお願い申し上げます。同門の先生方には色々とお迷惑をおかけすることと存じますが何とぞよろしくお願い申し上げます。世間では昨年は様々なことがありました。食品偽装、年金問題、悲しい事故・事件が相次ぎ、一昨年に続き災害の多い年でした。再び安心・安全確保のための危機管理が特に求められた一年だったと思います。本年は、世の中が、天災・人災等の災害のない平穏な年であることを切に願っております。

さて、帖佐悦男教授新体制がスタートし、4年が過ぎようとしております。本年もまた帖佐体制の進むべき方向を明確にし、教室が発展可能な礎を構築したいと願っております。昨年の教室の主な行事としましては、例年通り第54回、55回宮崎整形外科懇話会、第36回、37回宮崎県スポーツ医学研究会を開催し、三水会は170回を迎えました。また、さまざまな日整会単位が宮崎県内で取得できるように第4回、5回ひむか骨関節脊椎脊髄疾患セミナーも開催しました。今後も年2回開催の予定です。教室員のみを対象としたMOSSも大変好評でした。新入教室員歓迎会も盛大に行われました。また、第3回帖佐杯も開催されました。医局旅行は2泊3日の熊本・大分温泉旅行でした。とても楽しく盛り上がったひとときでした。日整会全国野球大会では悲願の三連覇はなりません

でしたが、その出場権をかけた西日本野球大会では、7年連続となる出場権を得ることができました。教室の現状といたしましては、折からの新臨床研修制度の導入で、関連病院の先生方には大変ご迷惑をおかけしておりますが、本年は新入局が大変困難な中、梅崎哲矢先生、山口志保子先生、深尾悠先生、日吉優先生に御入局頂きました。本当にありがとうございます。先生方を教室員として迎えられたことは、誠に大きな喜びであります。今後の活躍を心より期待いたします。

私自身と致しましては、医局長4年目を迎えました。この間、様々な出来事が発生し、歴代医局長の先生方の大変なご苦勞を痛感しております。最後になりましたが、現在のように様々な変革が起きようとする中、荒波を乗り切るために一番大切なことは、同門の皆様が一致団結し、ゆるぎない基盤を確立することだと思いません。相互の信頼と協力、尊敬と感謝、そして思いやりがなければ成り立たないと思いません。皆さまのご健康とご多幸そして宮崎大学整形外科教室の躍進を祈念して、挨拶と代えさせて頂きます。本年も教室員一同が一致協力し、気を引き締めて、安全で良質な医療の提供を維持しながら、この困難な時節を乗り切るよう頑張っております。まだまだ行き届かない点多々あると存じますが、教室員のため、教室運営のために精一杯頑張っておりますので、本年も何とぞご指導、ご鞭撻の程どうぞよろしくお願い申し上げます。

∞ 奨励賞受賞 ∞



第2回宮崎整形外科 医学奨励賞を受賞して ～アドレノメデュリンと私～

濱田 浩 朗

この度は「第2回宮崎整形外科医学奨励賞」を受賞させていただき誠に有難うございます。推薦して下さった同門の先生方および今までの研究を支えて下さった先生方に御礼申し上げます。

私は1998年に本学大学院に入り、1999年より田島先生・帖佐先生のご好意によりアドレノメデュリン (adrenomedullin) の整形外科分野における研究のため、第一内科の北村先生の指導の下、タンパク化学の研究を始めました。

当初は、「バッファーは1N (規定) に調節してペプチドは 10^{-6} M (モラー) に調節してください」と、言われ、本屋で「チャート式化学」を立ち読みしながら、涙目になりながら「せめて言っていることが判るくらいにならなければ・・・」と国試以上に勉強しました。やっとハーバー生化学のレベルまで行ったのは、その年の大晦日、2000年問題で医局の冷蔵庫にある先輩方の大切なサンプルをだめにしたような年越しで見張りをしていた頃でした。(大学が楽をしていると思っている人にはこんな仕事はたくさんあるので分けてあげます。)

こんな私ですがわかり出したら早いもので大体のタンパクの構造やシグナルカスケードがわ

かりだし、タンパク抽出・分離・測定が出来るようになって「ウシ軟骨」の収集を2000年の夏までがんばりました。ウシ軟骨を剥ぎ取る場合はカンナにかけると削いで薄い皮のようにして集めるのですが、暑い中、気の毒に思った食肉センターの方が大型扇風機をかけてくれたおかげでサンプルが全部飛んでいってしまい、集めるのに夕方までかかった辛い思い出もあります。また、RA患者さんの血液を集めるため1ヶ月間、市民の森まで行って朝、採血していた事もありました(看護婦さんは大喜びです)。こんなに苦労したタンパク抽出でしたが結局、日の目を見ることもなく「ウシ軟骨」はダメでヒト血漿のデータだけはどうか世に出ることが出来ましたが・・・。

人生においては「あきらめ」もかんじんです。In vivoとはどうも相性が悪いようでしたのでIn vitroに挑戦しました、今流行の細胞培養です。今でこそ細胞を取ってきて必要な細胞だけ抜き出し培養することが出来るようになりましたが、当時はそれこそ大変でした。カビがはえたり死んだり、わけのわからない細胞を培養してたり・・・「細胞も考えてみれば生き物だよな～」と何度かくじけそうになり、有限要素法を横目で見ながら気落ちしておりましたが「あ

れもあれで眼精疲労で頭痛がしそう～」と、自己解決し乗り切ることが出来ました。結局、骨芽細胞におけるアドレノメデュリンが論文になりどうにか4年で終わらせることが出来ました・・・。

今回の受賞において、この原動力は家族や友人の支えといたいところですが、実際は家族からは文句を言われ、誰かが手伝ってくれるわけでもなく、倒れたら即、無収入という「生活の不安」もあって、(ちょうど名義貸しが摘発された頃で、社会保険事務局の人に調書を取られた頃でした・・・当時の私に40万の追徴金は1ヶ月の給料に等しかったのです。)「早くやめたい」が原動力と言わざるを得ません。ですから間違っても研究を他人に薦めたりしません。やる気のある者だけがやるのでなければ出来るわけが無いと思いますし、指導者がいなければとても達成は無理だと思います。

それでは何を得たのか? 「月収が2000円アップする学位?」ちがいます。一番良かったのは「何か発表しろ!」「はい、わかりました」と言える「ネタ」を持っていることではなかつ

たか、言い換えれば [originality] とでも言いましょうか、おかげさまで6年間これで食いつぶすことが出来ました。

長文で申し訳ありませんが私が言いたいことは、「研究するのはやったことの無い人間が思っているよりはるかに大変です」ということと、

「大学院は確かに自由なので一生、学生でいたいと思うこともあります、生活不安は強く思ったほど自由でもないのですよ・・・私が4年でやめようと思ったくらいですから・・・」ということ、「研究で得るものは自分なりのoriginalをもてること」です。

現在のところアドレノメデュリンの研究に関する論文は3つ、雑誌掲載が3つあります。また、現在、執筆中が3つありますのでまずまずやっていっている状況ではあります。今回、「第2回宮崎整形外科医学奨励賞」を受賞し自分になりにも研究に区切りをつけることが出来ました。有難うございました。これからの若手研究者に期待しつつ終わらせていただきたいと思えます。

2008年4月



第2回宮崎整形外科医学 奨励賞を受賞して

山本 恵太郎

この度は、栄えある第2回宮崎整形外科医学奨励賞を頂き、身に余る光栄に存じます。また、前回の関本先生・今回の濱田先生のアカデミックな研究論文とは違い、今回の如くフィールドワークに関しましてはご評価頂き感謝の念一杯であります。ありがとうございます。また、本来は受賞にあたり暮れの同門会総会の時に基調講演をするべきところ、今回の受賞に关します東京での会議出席のため、4月の新入医局員歓迎会時にずれこみましたことをこの場をお借りしましてお詫びいたします。

6年目より大学に戻り、スポーツ整形外科グループの一員として診療やメディカルチェックなどの傍ら成長期のスポーツ傷害の講演などを行っていました。そんなおり、突然この事業の話が帖佐教授より舞い込んできました。最初は訳がわからず、教授の後を付いていただけでした。また、新しい事業を取り組むに当たり、大きな壁にぶつかり、日々苦悩が続き、時には教授と……。ただ、“宮崎の子供たちから運動器の傷害で苦しんでいる子を一人でも減らしていこう”の合言葉を胸に頑張って何とか平成19年度の清武町での実施ならび平成20年度に宮崎市数校への拡大に結びつけられました。今後は全国展開できるようなシステム作りが急務

なっています。まだまだ、事業内容としては成熟していませんが、子どもたちの将来に少しでも貢献できるよう有意義な検診体制にしたいと存じます。今後も皆様からのご協力・ご支援を頂きますよう宜しくお願いいたします。

最後に今回の受賞に際し、これまでスポーツ整形外科を支え社会活動などの道標を築いて頂いた田島名誉教授をはじめ諸先輩の先生方、今回の事業への偏重によりその他の仕事で負担をかけた後輩の先生方ならびこの事業を通じてご指導ご支援頂きました帖佐教授に心より感謝申し上げます。

(主旨)

児童・生徒の健康上の問題として、一方では運動不足に伴う生活習慣病があり、一方では運動過多に伴う四肢および脊柱のスポーツ傷害がある。その他にも心の問題、性に関する問題、アトピー性皮膚炎などのアレルギー疾患の問題などが深刻化しており、従来の学校医のみでは対応しきれないことが多くなってきた。文部科学省・日本医師会は「学校・地域保健連携推進事業」として精神科医・産婦人科医・整形外科医・皮膚科医などの各科専門医との連携事業を推進している。

学校における定期健康診断において、脊柱側弯症検診は従来から実施されてきた。しかし、1994年に旧文部省は文部省体育局長通知として「脊柱および胸郭の検査の際には併せて骨・関節の異常および四肢の状態にも注意すること」と明記したが、四肢の検診は未だに多くの学校では実施されていないのが現状である。

島根県では、運動器疾患の推定罹患率は約7%であり、耳疾患（2.4%）や肥満傾向（3.2%）、喘息（2.9%）と比べても高いことを示したと報告している（2006年）。


「運動器の10年」日本委員会は事業のひとつとして「学校における運動器検診体制の整備・充実モデル事業」を実施している。「小児運動器疾患・傷害の予防」を達成し、児童・生徒の心身の健全な発達を促進する目標であり、宮崎大学医学部整形外科はその趣旨に賛同し、2007年度に清武町教育委員会の協力を得て清武町内の小・中学校に実施した。2008年度は

更に宮崎市の協力校に対し実施をし、次年度以降は県下に拡大する予定である。


（運動器検診実施の主な理由）

1. 児童・生徒の運動器疾患、特にスポーツに伴う骨軟骨傷害が多発していること
2. 児童・生徒の体力・運動能力の低下傾向が続き、運動の過多と過少の二極化現象により、児童・生徒の健全な運動器の発育・発達が阻害されつつあること
3. 運動器検診は、運動器疾患、特に骨軟骨傷害の早期発見に有効であり、適切な保存療法を実施することにより形態的・機能的に修復が可能であること
4. 運動器の形態異常・機能不全を早期に発見することにより、健全な運動器の発育・発達を促し、体力・運動能力の向上に結びつけられること


運動器の10年 Bone and Joint Decade



1998年
スウェーデン・ホルムド大学
リドグレン教授が提唱



1999年
コフィー・アナン国連事務
総長が支持を表明



WHO (世界保健機関)
や世界の96カ国・地域が
協同して活動

2000-2010
皆が、運動器と運動の大切さを知り、
そのケガ・故障・病気を減らしていこう
という世界「運動」

「運動器の10年」日本委員会の事業

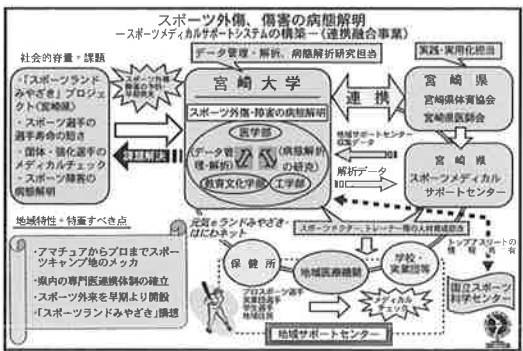
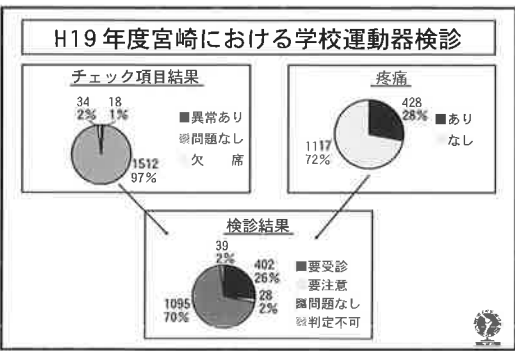
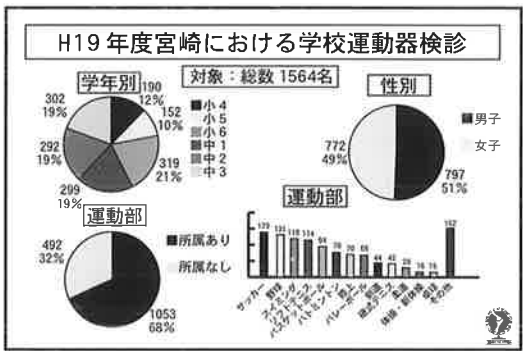
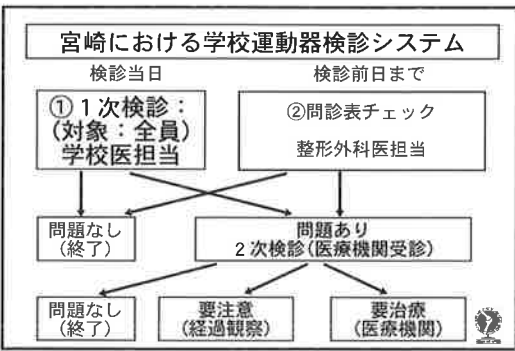
「運動器の10年」日本委員会は事業のひとつとして
「学校における運動器検診体制の整備・充実モデル事業」を実施

↓

「小児運動器疾患・傷害の予防」を達成し、
児童・生徒の心身の健全な発達を促進する目標

↓

宮崎大学医学部整形外科はその趣旨に賛同し、
平成19年度から清武町教育委員会の協力を得て清武町内の
小・中学校に実施した





～五ヶ瀬川紀行～

高千穂町国民健康保険病院
塩月康弘

渡辺前医局長から高千穂勤務を仰せつかり、早いものでもう6年になります。当然ですけど長男は小1→中1、次男は幼稚園年中組→小5、高千穂で生まれた長女は今年6歳になります。自分自身も老化現象を食い止められるはずもなく、屈伸で膝が痛むし昨年夏にはアキレス腱断裂を受傷してしまいました（その節はみなさん、御迷惑をおかけしました）。さて、この6年間これまた当然？ですけど仕事ばかりやってるわけではなく、私の趣味であるフィッシングにも精を出してきましたので、ここ五ヶ瀬川での「実績」について少しだけ紹介したいと思います。

赴任当初はカワムシやミミズを付けて、レギュラーサイズ（20cm前後）のヤマメを狙っていました。しかしどうせ釣るなら大物が釣りたいと考え、高千穂周辺の1:60000の地図を買い込み調査釣行を重ねていくと、大場所といわれるポイントを幾つも発見できました。そこで多良木勤務時代に教えてもらったマル秘釣法（笑）を試してみたところ、尺オーバーが釣れるようになったのです。この釣法での最大は45cmのオスで、43cmのメスと共に剥製にして飾ってます。確かに良く釣れるんですけど、エアポンプを装着した水の入った重たいバケツを手にとって、ガケだの長い階段だのを行き来し

なくてはならないという欠点があります。これを克服すべく始めたのがルアーフィッシングでした。

ロッドにリールをセットして、後は小さなバック1つですからポイント移動はとても楽チンです。ヤマメがルアーを追っかけてきて、パクッと喰いつく（ニセモノと見破って、反転して逃げていくことの方が多いですけど、、、）までの瞬間がダイレクトに見えますので、とてもおもしろいですよ。参考までにロッド：シマノオシア AR-CS706、リール：ダイワルピアス2506、メインライン：DUEL Xワイヤー0.8号、リーダー：クレハ Vハード2号のタックルで、ルアーは7～9cmのミノーを中心に使ってます。これで釣った最大は、47cmの鼻の曲がった立派なオス山女魚です（図1）。



（図1）

そういえば「山女魚」って溪流魚のイメージが強いと思いますが、かなり下流域まで生息しているんですね。なんと私の地元でもある延岡市でも釣れるんです。岩熊堰（判の方はかなりの延岡通です）までは確認されています。ここは春先には稚鮎を追っかけて遡上してきたズキも釣れちゃう変な場所です。こん棒のようなでっかいボラもワンサカいます。あっ！言い忘れてましたけど、堰から下流200mの区間は禁漁区ですので、釣りをされる場合は自己責任でお願い致します（爆）。

おまけとして五ヶ瀬川でもうひとつ忘れてはならないサカナ、「UNAGI」についてお話しします。UNAGIは河口域から源流域まで生息しており、その地域毎に特色のある漁法があります。具体的にはぶっ込み釣り、穴釣り、延縄、ポップ仕掛け、カゴ仕掛け、夜ヅキ（注！鮎の夜ヅキは違法です）、つけ針などが挙げられ、それぞれ名人と称される方達がおられます。私も五ヶ瀬勤務時代に土地の名人からつけ針の手解きを受け、自分なりに改良を加えて岩戸川や跡取川、五ヶ瀬川本流で漁を営んでいます。参考までにロッド：なし、リール：竹ヘラ、メインライン：ナイロン12号直結、針：伊勢尼11

号、オモリ：3号のタックルで、アブラメを付けてUNAGIのいそうな場所に夕方仕掛けて翌朝引き揚げる、という漁法です。一回に30～50本仕掛けますので投入に2～3時間、回収にも同じ位の時間を要しますし、アブラメを準備するのに2時間かかります。腕が悪いためか漁獲量は不安定で、一回あたり1～5匹で、ヒットする確率は平均するとおよそ仕掛けた数の1割未満くらいです。50本仕掛けて獲物は1匹だけということもあり、こんな時にはより一層美味しく感じられますよ（自爆）。天然UNAGIを食べたいという方には仕掛けの詳細、およびおおよそのポイントをお教え致しますので、ご自分で漁に出てみて下さいね（笑）。

話は変わりますが、先日当院の内科の先生と一緒に2級小型船舶免許を取っちゃいまして、今後はボートフィッシングに精を出す予定です。ジギング、エギング、鯛ラバ、インチク、エサ釣り等々またまた道具が増えて、妻にイヤ～な顔をされそうです（滝汗）。

最後に、私が師と仰ぐ先輩方の中の一人の「遊ぶために仕事をする」という言葉を胸に、仕事も遊びも手を抜かずに頑張りたいと思います。



～ 近 況 報 告 ～

安 藤 徹

私が勤務しています国立病院機構 宮崎病院は平成15年に前身の国立療養所 宮崎病院が独立行政法人化し生まれ変わった新しい病院です（建物、職員は老朽化する一方ですが…）。川南町の国道沿いに位置し、宮崎市と延岡市の中間にあり、どちらからも車で1時間程度で行くことができます（もうすぐ高速道路が通る予定と聞いています）。約8万人の人口をかかえる児湯郡（新富町、木城町、高鍋町、川南町、都農町）の中では数少ない2次救急病院として地域医療にあたっています。

当院は一部病棟100床、重度心身障害病棟120床を有し、常勤医師11名（整形外科2名のほかに内科3名、外科2名、小児科3名、放射線科1名）が勤務しています。整形外科には平均50名の入院患者がおり、平成19年の手術症例は270例と年々増加傾向にあります。外傷や変性疾患の治療はもちろんのこと、特に最近では関節鏡や人工関節などの関節外科治療にも力を入れ、周辺医療機関と連携し幅広く地域医療に対応しています。悩みの種は後方支援病院がほとんどないこと、医師（整形外科医も

ですが）が不足していること、病棟Nsが私よりもほとんど年上であることなどいろいろありますが、良い点としてはいつどのようなときでも検査や手術が迅速に対応可能（麻酔科はいませんが…）で、無駄な時間をすごさせることなく患者治療が行えます。

病院紹介はそこそこにして私生活の近況ですが、早いものでこの病院に赴任して5年ほど経過しました。赴任時には2人だった子供は仕事の忙しさに比例して増え続け、もうすぐ当医局の中でもトップタイに躍り出る勢いです。おかげで好きだったゴルフラウンドも減らすことを余儀なくされ、家庭と職場の往復だけで一日が過ぎてしまい街のネオンが恋しい今日この頃です。

このような近況ですが、いずれにしても周辺の関連施設の先生方や帖佐教授のご配慮で診療援助をしてくださる大学の先生方にご指導を頂きながら私も日々勉強をすることができていると感じています。この場を借りて感謝申し上げます。これからも宜しくお願い申し上げます。



宮崎県済生会日向病院

池 尻 洋 史

社会福祉法人恩賜財団済生会は明治44年に明治天皇の「恵まれない人々のために施薬救療し、済生の道を弘めるように」との済生勅語により御下賜金を基金として官民の寄付金により創立され、昭和26年に公的医療機関の指定、昭和27年には社会福祉法人の認可を受け、現在、全国に89医療施設を有する医療組織となっております。

当院は国道10号線沿い海側の日向市・門川町の境近くに位置し、昭和33年日向入郷医療圏内唯一の公的医療機関として開設されました。整形外科は昭和35年に開設し、宮崎大学整形外科医局からは昭和59年より派遣され長い歴史があります。歴代の先輩先生には蒼蒼たるメンバーが名を連ね諸先輩の築いた実績に恥じぬように頑張っていきたいと思っております。

当院の現状を御報告いたします。診療科は内科・外科・整形外科・小児科・脳外科・放射線科（常勤）・耳鼻科・眼科・麻酔科（宮崎大学からの非常勤派遣）があり病床数は204床（一般150床うち50床は休床（医師不足等により）、療養型50床、感染症4床）です。私が赴任してきた平成17年7月には常勤医師数は18名でしたが新研修医制度などの影響で年々減少の一途をたどり現在11名となっております。当科的に一番困ったのが平成18年4月の宮崎大学からの内科医4

名完全撤退です。同年9月に内科常勤医が赴任するまでの5ヶ月間は内科医不在となり、その間、宮崎大学や済生会福岡・熊本病院からの御協力によりなんとか急場をしのぐことができました。現在内科医2人となりましたがまたいつ不在になるかわからない不安定な状況です。

整形外科は副院長の酒井健先生・公文崇詞先生と私の3名で治療にあたっております。入院患者数30～50人で推移し、外来は月～土曜の午前2診（土は1診察）にて行っており、H19年度の延べ外来患者数13505人です。リハビリについてはPT5名、OT1名と比較的充実しております。手術は火・水・金曜の午後16時～18時に外傷・骨折を中心に年間約300例前後を行っています。TKA・THA・膝関節鏡下手術など多種多様の手術症例がありやりがいのある施設と考えております。近隣の開業医の先生方には数多くの貴重な症例を御紹介頂き感謝いたしております。

日向入郷地区の関連病院としてなくてはならない存在だと考えておりますが、近年当院を取り巻く環境（救急体制や医師派遣の問題など）は一段と厳しい状況になっており一抹の不安を感じておりますが、地域医療・病院の発展のために更なる努力を行いたいと思っておりますのでよろしくお願いたします。



2007年 医局旅行

厚生係 河原 勝博

本年の医局旅行は9月15日から17日の日程で整形外科と歯科口腔外科、病棟との合同で総勢45名の2泊3日大分方面のバス旅行となりました。

1) 聞いてないよー

厚生係を2年もすると4月頃から秋の旅行をどうするかを考える日々になります。昨年は新入局員歓迎となり教授公約の上海旅行となりましたが、今年は寂しく入局員ゼロのため近場でと考えていました。すでにS本医局長の素晴らしい段取りで、教授の忙しいスケジュールを春からブロックし9月15日から17日の連休に医局旅行に行くことは決定していました。ゴールデンウィークを過ぎたころでしょうかS本医局長の元に一本の電話が入りました。歯科口腔外科のS川先生から医局旅行についてのあいさつの電話でした。「今年は整形外科と一緒に医局旅行に行くとのことでよろしく願いいたします。」私にもその内容はすぐに入りましたがすぐには理解できませんでした。結局はC佐教授が歯科の迫田先生との飲み会でのお話の中で今年是一緒に行きましょうと言われたことだそうです。(よく聞けばご本人は覚えていなかったそうですが周りはしっかり聞いていたようです...) 私たちは聞いてないよーとダチョウ倶楽部ばりのリアクションでした。それも指令はまたもや

宮崎発のチャーター海外・・・頭の痛い日々が続く始まりでした。

2) キビシー

教授の公約を「どげんかせんといかん」ということで昨年宮崎発の上海チャーターを組んだ阪急旅行に連絡しました。昨年同様、宮崎発のチャーターがないか？もしくは組めないかどうかを交渉しましたがなかなかありません。海外に行くには関西空港発か宮崎からソウル便しかないような状態でした。どちらも連休がらみで空きが少なく3か月前程度から50名程度の海外予約はキビシー状態で旅行会社の担当者からは嫌味混じりの回答でした。また最終的には9月は台風シーズンでもあり飛行機を利用した旅行は行けない可能性や戻れない可能性もあり最終的には九州内のバスに落ち着きました。最終的には以前お世話になった宮崎交通の方に泣く泣く願する形で大分方面の旅行に決まりました。



城島後楽園ホテル



別府ロイヤルホテル

3) ビールづくし

台風がらみの雨の中9月15日、この日迫田教授がお仕事の都合で突然キャンセルとなったことが残念でしたが、気を取り直して午前8時40分2台のバスに分乗し大学を出発しました。すぐにバス後方のサロンでは酒盛りが始まり朝からビールが飲めることが幸せで大いに盛り上がりました。かなりのハイペースでしたので1時間に一回はトイレ休憩しないといけない状態でした。そうこうしているうちに熊本にあるサントリービール工場に到着し、工場内の見学とできたてのビールやジュースを堪能しました。その後施設内のレストランでバーベキューとなりましたがここでもまたもビールを飲みましてお昼までに皆さんかなり出来上がった状態でした。幹事である私も不覚にもかなり酔っ払っておりました。

その後、高速で鳥栖を経由して大分へ向かいました。

4) そんなのカンケーねー

別府ロイヤルホテルに到着し、各自ゆっくりした後C佐教授の乾杯で宴会が始まりました。各部署の新人さんの挨拶をしていただき、歯科と整形から出し物が披露されました。整形からは芸達者のM橋先生（奥さんと子供の前でご苦労さまでした）とF島先生が流行りのお笑い芸人の物まねをしていただきました。その中で小島よしおの芸を披露されましたがそのときなんとM橋先生はC佐教授を前に引っ張り出して芸に参加されてまして大盛り上がりでした。（オイ

オイ、M橋先生恐れ多くも教授ですよ・・・
そんなのカンケーねーか）

5) 各自の2日目

2日目も残念ながら雨でした。この日は別府温泉散策班・湯布院散策班・ゴルフ組・遊園地組と別れての行動となりました。散策組は女性を中心にそれぞれゆっくりとした休日を満喫したようです。ゴルフ組は藤浦師長、歯科の古田・市来先生、S本医局長、F島先生、河原の6名が城島後楽園カントリーで行いました。雨と霧、また山岳コースでなかなか大変でしたがみんなで楽しいラウンドでした。夜は各自で城島後楽園ホテルに集合し、夜の遊園地を散策して焼き肉バイキングでお腹を満たしました。

6) うみたまごから大学へ

3日目の午前中は全員でうみたまごに行きました。さすが三連休ということもあり会場は混み合っておりましたが、それぞれショーなどを観て楽しみました。また各部署へのたくさんのお土産を抱えて大分を後にしました。夕方5時頃に全員無事に宮崎に戻り3日の旅行も終わりました。

最後に帖佐教授・藤浦師長をはじめ、歯科幹事の砂川先生に御協力を仰ぎながら無事に旅行が終えれたことを感謝いたします。また関連病院の先生方には今回の旅行に際してご配慮いただけましたことをこの紙面を通じて感謝申し上げます。



うみたまご



日整会野球大会を 振り返って

キャプテン 安 藤 徹

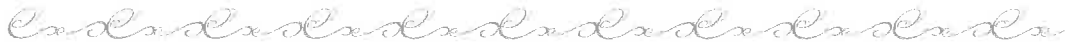
平成19年5月24日神戸で大会史上初の全国大会3連覇に向けた戦いが始まった。去年(平成18年)の西日本親善野球大会(九州大会)で優勝、全国大会出場の切符を勝ち取った。過去に全国大会優勝連覇を果たした大学はいくつかあるが、3連覇となるとそう簡単に達成できるものではない。我が宮崎大学もこの12年間に11度の全国大会出場(九州山口大会で優勝、準優勝までが全国大会出場)とレベルの高い九州では抜群の成績を残してきたが、チームの高齢化が進み今後が危惧される状況である。3連覇偉業達成は最後のチャンスかもと、の思いで今大会に臨んだ。

1回戦は九州大会でも対戦歴がある山口大学(中国四国代表)である。ここ10数年は負けていない。チーム最年少の三橋を先発に立てた。3回までは0-0と相手投手を攻めあぐんでいたが、4回裏キャプテン安藤の長打を足がかりにヒット5本を重ね、一挙3点を上げ勝負を決めた。終盤1点を返されるも三橋は完投、3-1での勝利であった。

5月25日大会2日目は朝から小雨が降っていた。天気予報では1日中の雨とのこと。今日はできるのだろうか?と思いながら球場に到着。小雨のうちに早めに試合開始とのことで急遽試合前の練習を途中で切り上げる羽目に。相手は

あの東京大学である。去年も対戦、巨漢石田のひとり舞台?で勝利を挙げている。東京大学とはいえども、そのときの対戦や練習前の動きを見る限りではベンチで指揮をとるキャプテン以外はあの東大のイメージは全くない。入局までは各大学で野球をやっていた奴らばかりだろうか?どうせ生粋の東大出身者はいないんだろう、野球でも負け?そんなこと許されるはずがない、なんてことを考えているうちに試合はプレイボール。同時に小雨だった雨は次第に強くなっていった。先行の我がチームは初回より再三にわたって満塁のチャンスを作るが得点には結びつかず、逆に2回裏に相手に1点先行され、勢いよく降りしきる雨の中焦りは次第に募っていった。3回裏にはまさかの長打を重ねられ、3失点、0-4とかなり厳しい状況となった。試合時間も拙攻のため時間経過の割には回は進まず4回表も満塁と粘りを見せ得点のチャンスを作ったが、結局点は入らずそのままゲームセット。この瞬間3連覇の夢はあえなく散りさった。振り返ると4回で11残塁の大拙攻であった。采配を含め自分のふがいなさにしばらく苦しむこととなった。

帖佐教授、チームの皆さん、応援していただきました先生方、大変申し分ありませんでした。この悔しさを胸に再出発、今後さらに精進したいと思います。



第50回西日本整形外科 親善野球大会を振り返って

一軍キャプテン 安藤 徹

平成19年7月28日、29日、5月に全国大会2回戦で東京大学に3連覇を阻まれた悔しさを胸に西日本整形外科親善野球大会に臨んだ。我が野球チームも新研修医制度の余波を受け、以前は例年野球部員が入局を果たしていたものの、ここ数年は入局者さえないなかなか確保できず、チームの高齢化は進むばかりである。かつて30歳前後のメンバーで固めていた我が最強チームも一軍メンバー全員が30歳以上となり、そろそろメンバー補強を、と医局のフロントに思う今日この頃である。

1回戦：長崎大学（三橋－福岡）9－3

初戦は近年対戦機会のない長崎大学であった。初回2点先制後は初戦の固さもあるせいか追加点が奪えず、逆に終盤の5回には3点返され、1点のビハインドとなった。予想外の展開にさすがに慌てた。最悪の状況が頭をよぎり、最近には経験のない焦りを感じた。逆転された直後に4番小園のヒットで追いついてからは全員（キャプテンだけかもしれませんが・・・）冷静さを取り戻し、その後の怒涛の攻撃は相手の落胆もあり加速、終わってみれば9対3の圧勝で事なきを得た。油断大敵とはこのことか？

2回戦：九州大学（長澤－福岡）5－1

今、我がチーム（厳密にはC教授とS医局長）がもっとも入局を熱望、大会前日には入局の意思？を示してくれた新人長澤（宮崎大学出身、福岡で研修中）が先発を務めた。今回の野球規約に抵触しないように久しぶりの大物ルーキーは自動登録され、大事な試合を任されることとなった。

やはり活きが違った。うちの速球派、三橋のボールとは明らかに何か違う。九州大学も野球部上がりと思われるサウスポーの新人投手をぶつけ、明らかにこの試合にかける九大教授の意気込み、かける思いが感じられた。

試合は4回までに先取点、追加点、ダメ押しと理想的な試合運びで相手の先発投手をノックアウト。長澤もほぼ完璧な投球で1失点、5－1の完勝であった。文頭の先生方々には今後も引き続き猛烈なアタック、ラブコールを宜しくお願いいたします。

準決勝：福岡大学（松岡－福岡）5－0

因縁の1戦である。その前の年も全国大会出場をかけた準決勝で対戦、三橋のサヨナラホームランもまだ記憶に新しい。この試合は5回戦であるため先行逃げ切りが絶対条件である。3

回到三橋、松元先生の長打などで4点を先取、ここで勝負は決まった。投げては松岡が散発一安打の完封であった。

決勝：佐賀大学（矢野先生・安藤一池尻）5-0

決勝は予想に反して佐賀大学であった。今年は戦力を補強、対抗意識が強く感じられるのは共に教授の専門分野が股関節であるせいかな？全国大会出場が決まったとは言えども我が教授のために負けるわけにはいかない。この試合は3本柱の一人、温存していた矢野先生が先発。全員野球、かつのびのび野球で5対0と圧勝、見事連覇を果たした。

全国大会の予選となるこの夏の大会で無事優勝、次回の日整会でまた出直すことになりました。医局内では野球、サッカー、ゴルフを始めそれぞれのスポーツに各先生方が参加する機会がたびたびあります。スポーツに携わる医師として何事にも一生懸命取り組み、スポーツのよさを感じながら活動できる機会を今後も楽しんでいけたらと考えます。野球大会参加におきましては大学を含め関連病院先や同門の諸先生方にはいろいろ御迷惑をおかけすることと存じますが、ご理解の上、御協力、御支援の程何卒宜しくお願い申し上げます。



祝 全国大会2年ぶり2度目出場!! 日本整形外科学術集会サッカー大会 九州ブロックC予選会

サッカー部主将 **山本 恵太郎**

日本整形外科学術集会親善大会としてサッカー大会も行われるように早4回目を迎えました。野球同様もうすっかりお馴染みとなってきたと存じます。さて、悔しい思いでの予選敗退した昨年の鬱憤を晴らすが如く今年は気合が入りまくり（本学会開催地が北海道！のため？）、見事2年ぶりの全国大会出場を勝ち取りました。

時は平成20年2月3日、場所は鹿児島県南さつま市吹上浜海浜公園。東シナ海に面しており鹿児島といっても割と遠く、また前日よりの雨でピッチの状態が心配でしたが、なでしこジャパンなどの合宿に使われた場所だけあって、非常に良い芝であったため楽しくサッカーができました。

今回も大分大学・鹿児島大学との対戦（総当たりリーグ戦にてトップ1校に全国大会切符を

ゲット）。ルールは前回同様で、8人制・ハーフコート・20分ハーフ制・年齢制限（30歳以上が4人、そのうち最低40歳以上が1人常時出場）・フリー交代制などの特別ルールのもとに行われました。

注目の組み合わせ抽選は最高の2・3試合目を引き当て、その上2試合目が1試合目の勝者と対戦と願ってもない展開になり、キャプテンの行いの良さをアピールできたのは嬉しい限りでした。

結果は、

- ① 鹿児島2-1大分
- ② 宮崎4-0鹿児島（得点）樋口誠3、日吉
- ③ 宮崎6-0大分（得点）日吉、森2、樋口誠、公文、三橋



3校集合写真

宮崎大学は得点10、失点0と、実はくじ順は関係ない快勝で全国大会出場権を獲得しました。

今回は、

40歳代：園田、野中、山本

30歳代：大倉、森、公文、吉川大、三橋、樋口誠

20歳代：小島、福田、日吉

マスコットガール：山口奈美（旧姓小松）、

吉川教恵

の計12+2名の参加でした。



パパかっこい〜い！ by. Nori

今年は2月開催で気温は寒い上、前日よりの雨のうえ、当日は曇混じりの激しい風雨に見舞われ、昨年同様おじさん軍団には非常に厳しい条件での戦いでした。しかし、新人の日吉先生の華麗なテクニックにマスコットガールの黄色い(?)声援が加わり、2試合とも楽しくサッカーができ、他校とも親睦を深めることができました。

メンバー詳細や写真などはHPへアクセスして是非観てください(宮崎大学医学部・大学院医学系研究科

<http://www.med.miyazaki-u.ac.jp/>

→宮崎大学整形外科

<http://www.med.miyazaki-u.ac.jp/ortho/default.htm>



新進気鋭のサッカーマン

→課外活動→サッカー部)。

この結果、5月に開かれる日本整形外科学術集会での親善大会に2年前同様野球ならびサッカーが出場でき非常に喜ばしいことになりましたが、選手の派遣に伴い関連病院の先生方には多大なご迷惑をお掛けし大変申し訳なく思っております。ただ今回は、予選前日の第16回鹿児島県スポーツ医学研究会に演題発表をさせていただきましたし、日整学会術集会にも発表を2名してきます。田島名誉教授が謳われた“良く学び、良く遊べ”を実践できているのも誇りに感じています。親善大会での健闘のみでなく、学術集会でも最新の知見を得て整形外科医として有意義になれるよう頑張ってきますので、今後とも宮崎大学医学部整形外科サッカー部へのご支援・ご出場のほど宜しくお願い致します。



精鋭12名+マスコットガール2名+将来の整形外科医(?)1名



第16回同門会ゴルフ大会

藤元早鈴病院 整形外科
園田典生

平成19年11月25日にハイビスカスGCにて第16回同門会ゴルフ大会が開催されました。自分では秋頃からゴルフに対する気持ちを入れ替えようとクラブを買い換えて都城は遅くまで(11:00まで)練習場が開いており仕事が終わっても1~2時間は練習できるという素晴らしい環境を赴任4年目にして実感しながら暇をみつけては練習しておりました。前日の忘年会も1次会で切り上げて都城まで帰宅し朝5時起床、6時出発という絶好の体調でコンペにのぞみました。但し練習のやりすぎか、仕事のやりすぎか左肩の痛みがありドライバーが振れるか心配でした。朝、クラブの練習場ではあまり痛みを感じることなく練習できたので少し安心しながらスタートを迎えることができました。生まれれば痛みに不安を覚えることなくプレー

ができて2打目トップでもグリーン周りまでボールが飛んでそこからパーなど幸運もあり、また何より宮崎医師会病院勤務時の師匠とゴルフ師匠の3人というメンバーで自分では久しぶりの87というスコアとなりました。自分も優勝にびっくりでしたが家に立派な優勝カップを持って帰ったら家内が1番びっくりしておりました。ゴルフの師匠と距離が離れてなかなかスウィングをみてもらうなどの練習ができない状況ですが現在も左肩痛・左環指ばね指とつきあいながら仕事のストレス発散のために暇をみつけては練習したいと考えております。

最後に一緒にラウンドしていただいた川越先生・益山先生に感謝します。ありがとうございました。



第10回同門会 テニス大会(優勝)について

三財病院

松本英裕

例年のごとく11月23日(勤労感謝の日)、同門会テニス大会が開催されました。今回は記念すべき第10回大会でした。参加メンバーは川野啓一郎先生(大会会長)、弓削孝雄先生、福田健二先生(前回優勝)、神園豊先生(前々回優勝)、尾田朋樹先生、谷島満先生、松本英裕の7人と県立宮崎病院の高妻雅和先生に今年度も参加して頂き、好天の元で熱戦が繰り広げられました。今回より試合形式が変更になり、前回までは4G先取(最高7Gまで戦うことあり)で戦っていましたが、今回は一試合4Gのみとしました。獲得G数をポイント化して競いあったわけですが、試合の流れは早く、全員と

一度はペアを組むことができ、交流も兼ねた本大会の趣旨にとっても合った試合形式になりました。

競った試合の連続でしたが、勝利に執着しつつも、和気あいあいとペア同士励まし合い、喜び合い、擦過傷を負われた先生もおられましたが無事終了しました。結果は昨年同様、最終試合で優勝者が決まるという混戦でした。おかげさまで、久しぶりに私が優勝させて頂きました。正直とても嬉しかったです。

同門会テニス大会は毎年11月23日に開催しております。第11回大会は連休中に当たりますから先生方も予定がおりかもしれませんが、新しい先生の参加をお待ちしております。



麻雀大会優勝

河野 雅行

平成20年度同門会麻雀大会に優勝しました。
「今回は、参加者のレベルが高く、且つ参加者の調子が良い中での優勝でしたので、事その他嬉しく感じました。相手が強いと私の闘争心が煽られてつい本気になってしまい、当然ながらも優勝していました。」と書くべきか、「今年は例年通りに無欲で臨んだ結果、気が付けばいつの間にか優勝していました。優勝なぞ全く考えて

もおらず望外の喜びです。」と書く方が謙虚で良いのか、この様な勝利の感想を表すのは「何回優勝しても」中々に難しいものだと解りました。何れにしましても、少しばかり年末のボーナスをいただきまして有難うございました。

次回も参加される先生方に御願ひですが、敬老精神を発揮されて手加減を宜しくお願ひいたします。



第3回帖佐杯ゴルフ大会 優勝について

宮崎社会保険病院

益山松三

昨年4/15にレイクサイドで行われた第3回帖佐杯で第2回に続き、優勝することができました。幹事の関本・河原先生、同組の安藤・川野先生に謹んで感謝申し上げます。スコアは36-35-71で、パターがよく入って4つもバーディが取れたこと、久々にゴルフ三馬鹿トリオで楽しくプレーできたことが勝因だと思います。しかし第4回からは固定制ハンデになるので暫く同門会誌に載る機会もないでしょう。そこで甚だ恐縮ですが、自分の今までの経験からゴルフの上達に関する文章を書かせていただきたいと思っています。あくまでもゴルフの壁にあたって、あるいはこれからゴルフを始める後輩の先生方に向けてのもので、諸先輩方はどうぞ次のページに進んでいただければ幸いです

1 優先順位（スイングの幹と根）

巷に溢れるゴルフ雑誌には、アドレスが大事だ！グリップが最も重要だ！などと、星の数ほどの理論が渦巻いていますが、アマチュアゴルファーにおいては適切なリズムとバランスがスイングのなかで最も重要と考えます。樹に例えらるとするならば、幹と根に値するのではないのでしょうか。トップの深さ、高さ、フェースの向き、手首の角度、バックスイングの軌道といった様な

ポイントは樹の枝葉でしかなく、練習時間、ラウンド数の限られたアマチュアには、それらを優先事項として重要視することはやや非効率的であるといえます。各人のスイングの中でいい球を打てた時のリズムとバランスを再現することが大事で、ダフリやトップなどの大きなミスを防げる可能性が高くなり、この2つを習得した後にその次のテーマに進む方が上達の近道だと思います。要はナイスショットのときの感覚を大事にして、いかに気持ち良く振るかということに尽きると思うからです。

2 飛距離はヘッドスピードにあらず・ミート率と加速性が大事。

飛距離を伸ばすポイントは、ミート率と加速するスイング（acceleration）だと思います。アマチュアにありがちな、おおきなバックスイングでインパクトで緩む（ミートしようとしてボールに合わせる）、減速したスイングは瞬間のヘッドスピードが高くとも決して飛びません。その上、狙った距離と方向性を出すのが、困難になり結果として前途のバランスとリズムも失うこととなります。トップからインパクト、フォローにかけて少しずつヘッドスピードが上昇していくイメージが重要で、インパクトよりもむ

しろそのあとにヘッドが最高速に達するイメージといえます。50 m/sの加速しないスイングより、42 m/sの加速スイングの方がミート率のアップも伴い、平均距離は必ず上がる！と思います。

3 ゴルフは平均点勝負・モデルチェンジはマイナーチェンジで。

上の二つに少し重なりますが、ゴルフは正確な飛距離と方向性を競う競技であり、毎回80点のショットを打つ方が、100点もあるけど30点もある方よりは少ないスコアに結びつくと思います。まさにアガッテナンポ！の世界ですから、80点とはいかないまでも、自分の中で60点以上のショットを18ホール続けるイメージが大事と思われる。その平均を上げていくには、自分のスイングで悪いと思われる点を矯正する必要があります。ここで、極端にスイングをモデルチェンジすることは避けた方がベターです。スライス系の動きをフック系に大きく矯正すれば、必ず別な箇所も大きくモデルチェンジを必要とし、結果遠回りになりがちです。矯正の途中で自信喪失して自分のスイングがわからなくなるケースを多く見してきました。時間が多くある人は別ですが、仕事の合間を縫ってゴルフをする方にとっては、小さな矯正を少しずつ積み上げていく方が、結果として近道であるように思えます。

4 ミスは固める・狭いホールは開き直り。

アマチュアは自分の球筋をおおよそ固めて、予測することが大事です。スライスもフックも両方出るのが、一番実戦に不向きだからです。（し

かし、持ち球を作ることが一番難しいとも言えますが。。）スライスが持ち球なら、左にハザードがある場合は自信を持って振り切ってください。右にある場合は目標を左に向けて、その日の自分の調子に合わせて10-20yのマージンを取りましょう。両方ハザードの場合は、開き直る他はありません。それでも悪い結果が出たら、それが今の自分の実力だと悟りを開き、前向きに練習しましょう。自分もこんな感じでアバウトにやってきました。プロではありませんので、自分への期待、自信、結果への落胆にはそれぞれ、節度を持つことが大事だと最近、やっと分かりました。（OBも打つき。おれだもの。。。）といった感じでしょうか？

5 パターは距離感重視・芯で打つ。

スコアに直結する大事なショートゲームについてですが、正直自分も未熟な分野で、多くは語れません。自分の経験として、芯で打てているときは、ヘッドが目標にしっかりと出ているときなので、転がり良くなり、入る確率が上がります。もちろん、下りでも芯で打つことによって本当の距離感が身につくといえます。それと上達するためには、強気強気でカップオーバーを心がけることももちろん大事かもしれませんが、ここ数年はラインを適度に読んで、適度に定めた目標に対して距離感を合わせることだけに集中して打っています。セカンドパットを精神的に負担のない距離で、打ちたいからです。運のいい日は、狙ったラインが当たって、たまたま入る。そんな感じでプレーしてます。臆病になって3パットが怖いだけなのかもしれませんが。

最後に プレーファスト!の精神

始めたばかりの頃は、誰だって大叩きします。突然のコンペで知らない先輩と回ることになれば、緊張すると思います。だけどスコアの数は、問題ではないので心配しないでください。要は自分の打つ順番が来るまでに、準備を済ませておけばいいのです。少しでも早く打ちなさいという訳ではなく、組として遅れなければ何も問題ないのですから、同組の先輩に進行は任せて

ください。もちろん、初めは周囲をよく見て、とはいかないでしょうが、自分なりに一生懸命していれば、細やかなエチケットとマナーは、周りの先輩がきっと優しく！教えてくれます。わが整形外科局には、帖佐杯、MOSS会をはじめ、様々なコンペがありますので、臆せずに参加していただければ幸いです。以上長々となりましたが、ご挨拶とさせていただきます。ではでは。 益山 拝



自己紹介

びろうの樹脳神経外科
菅田育穂

大隅半島の志布志で整形外科と脳神経外科を開業して12年目の有床診療所です。

帖佐教授を中心とする宮崎大学整形外科教室が発展すること、私自身が整形外科の進歩を何らかの形で感じることを目的に参加させていただきました。同門会の仲間に加えていただきうれしい限りです。「老医のひとりごと」で「自己紹介」にかえさせていただきます。

「都会と田舎の医療の格差の是正」、「徹底した数の合理主義に基づく米国的医療の押しつけに対しどう立ち向かうか」が私の当面の課題です。

田舎に少なくとも全国平均レベルの医療の質を提供できないか努力してきましたが、道は程遠いようです。脳動脈瘤を初めとする血管内治

療の実施、冠動脈狭窄の早期発見によるステント治療への誘導はスタートがきれた様に思います。1.5T・MRIと64C・MDCT導入による借金返済が大きな問題です。

医者になって30年を過ぎ思うことがあります。外科医として「鬼手仏心」を手本とすべき活躍の時間はたちまちのうちに過ぎ去るものだと思います。私の所属した教室に対して思い出します。「人の足は引っぱらない」、「一人のみ抜けがけをしない」こととし、教室の「和」には協力したかな？教室の発展のため質や人材の蓄積には役立たなかったようです。専門の医療への情熱が大切と思うのですが、いろいろな面で十分だったか反省多しです。宮崎大学整形外科教室をうらやましく思う老医者ですが宜しくをお願いします。



賛助会員入会にあたり

福島外科胃腸科医院

福島 正 明

この度、宮崎大学整形外科教室の賛助会員として入会させて頂きました。都城で外科胃腸科医院を開業しているのですが、私の息子三男の福島克彦が整形外科に入局している事もありまして、賛助会員として入会しましたので宜しくお願ひ致します。

私は、S39年に鹿児島大学を卒業して1年間のインターンを終え、鹿児島大学第一外科に入局しました。そしてS52年に都城で開業致しました。

開業当時、都城には医師会病院がなかったの
で、外科手術を行っていましたが、現在は整形
外科医でもないのに、年寄りの腰痛と肩こりの
患者さんや小外科の患者さんを診ながら、細々
と診療をしています。

又、都城地区の同門の先生方には、患者さんの
事でお世話になっていますが、同門会をはじめ
医局の皆様のご指導の程を今後とも宜しくお願
ひ致します。

新入会員自己紹介(正会員)



名 前：梅 崎 哲 矢

生年月日：昭和55年4月7日

出身高校：宮崎大宮

出身大学：琉球大学

血液型：O型

この度、2年間の初期研修を終了し、入局させていただきました。
焼き鳥片手に酒を飲みながら、宮崎に帰ってきて良かったと思います。
現在、ゴルフと焼酎を勉強中です。
多方面での御指導・御鞭撻の程宜しくお願いいたします。



名 前：日 吉 優

生年月日：昭和55年8月7日

出身高校：延岡東

出身大学：宮崎大学

血液型：O型

はじめまして。延岡出身、宮崎大学卒業の日吉 優です。東京の研修病院で2年研修した後、戻ってまいりました。

システムの違いなど不慣れな点が多く、御迷惑をおかけすることがあるかもしれませんが、一生懸命頑張りますので、どうぞよろしくお願い致します。



名 前：深 尾 悠

生年月日：昭和55年10月25日

出身高校：東海高校

出身大学：宮崎大学

血液型：A型

はじめまして。今年度宮崎大学整形外科へ入局させて頂きました深尾悠と申します。

宮崎大学を卒業した後、出身地である愛知県の研修病院で2年間勉強して来ました。現在、大学で働き始め、1ヶ月が経ちますが、この医局に入局して良かったと感じる毎日です。

これから皆様に多々御迷惑をおかけすることがあるかと思いますが、御指導御鞭撻の程よろしく願いいたします。



名 前：山口 志保子

生年月日：昭和56年1月3日

出身高校：宮崎大宮高校

出身大学：福岡大学

血液型：O型

このたび入局させていただいた山口志保子です。宮崎大宮高校、福岡大学出身です。臨床研修で地元の宮崎で研修させていただきのびのびと研修できました。趣味は音楽鑑賞、映画鑑賞です。4月から脊椎班をまわっています。毎日すばらしい先生方のもとで勉強させていただいています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

平成20年度 宮崎大学医学部整形外科学教室
同門会総会 議事報告

総会：H19/11/24(土) 16:30~17:30 宮崎観光ホテル

1. 平成19年度(H18. 10/1~H19. 9/30) 報告

(1) 会員状況(平成19年9月30日現在)

正会員：147名、賛助会員：40名

(2) 会員動向

賛助会員入会：前原 尉 先生(平成18年11月24日付)

賛助会員退会：網屋 貫志 先生(平成19年9月30日付)

物故会員：永井 孝文 先生(平成19年8月20日付)

教室人事：ホームページ掲載

結 婚：福田 一 先生(平成19年9月29日)

開 業：神菌 豊 先生(平成19年1月13日)

渡部 正一 先生(平成19年1月15日)

(3) 事業報告

平成18年11月 9日(木)：第1回役員会(ホテルメリージュ)

11月23日(祝)：第9回同門会テニス大会(優勝：福田健二先生)

11月25日(土)：第2回役員会、総会、講演会、忘年会(観光ホテル)
：第2回同門会マージャン大会(優勝：税所幸一郎先生)

11月26日(日)：第15回同門会ゴルフ大会(優勝：帖佐悦男先生)

12月 同門会会則名簿発行

平成19年 4月15日(土)：第3回役員会、新入教室員歓迎会(観光ホテル)

5月31日(木)：同門会誌18号発行(女性医師の現況)

(4) 教室支援(留学、学会など)：平成19年度なし

(5) 会計報告：平成19年度決算は監査報告があり総会にて承認された。

2. 平成20年度(H19. 10/1~H20. 9/30) 事業計画・予算

(1) 総 会：H19. 11/24 宮崎観光ホテル

* 平成20年度の予算案は承認された。

(2) 役員会：第1回 平成19年10月 4日(木) ホテルメリージュ

第2回 平成19年11月 1日(木) ホテルメリージュ

第3回 平成19年11月24日(土) 宮崎観光ホテル

第4回 平成20年 4月12日(土) 宮崎観光ホテル

(3) 講演会：H19. 11/24

① 講師：久保 紳一郎 先生

演題「頸椎変性疾患の手術療法」

② 講師：福田 健二 先生

演題「むち打ち損傷—新たな知見—」

(4) 奨励賞：H19. 11/24 受賞

① 濱田 浩朗 先生『Adrenomedullin stimulates the growth of cultured normal human osteoblasts as an autocrine/paracrine regulator』

② 山本 恵太郎 先生『宮崎県におけるスポーツの振興と運動器検診の確立』

(5) ウガンダ報告：田島 直也 先生 H19. 11/24

(6) 親睦行事：H19. 11/23 第10回テニス大会

H19. 11/24 第3回マージャン大会

H19. 11/25 第16回ゴルフ大会

(7) 役員改選：平成20年度総会にて役員改選が行われた。

任期 (H19. 10/1～H21. 9/30)

会長：河野 雅行

幹事：岡田 光司、渡邊 信二

会計：川越 正一、山本 恵太郎

世話人：伊勢 紘平、押川 紘一郎、平川 俊一、川野 啓一郎、

松本 宏一、帖佐 悦男、柏木 輝行、黒木 龍二、園田 典生、

関本 朝久、川野 彰裕、石田 康行、船元 太郎

監査：税所 幸一郎、戸田 勝

(8) 同門会会則名簿発行：H19. 12月

(9) 同門会会誌第19号発行 (平成20年5月)

(10) 新入医局員歓迎会：H20. 4/12 (第4回役員会)

(11) 教室支援(留学、学会など)：H20. 8/ 2 第15回西日本整形外科スポーツ医学研究会

H20. 8/ 3 第51回西日本整形外科親善野球大会

H20. 11/29, 30 第116回西日本整形外科・

災害外科学会

(12) 平成21年度 (H20. 10/1～H21. 9/30) 総会：H20. 12/6 (土)

教室同門の研究業績

(2006年1月～12月)

◆著書

- 1) 下肢骨骨折
帖佐悦男
経験すべき外傷・疾患97(菊地臣一、中村利孝、越智光夫),
p47-50, 2006
- 2) 骨折に伴う合併症
帖佐悦男
経験すべき外傷・疾患97(菊地臣一、中村利孝、越智光夫),
p60-63, 2006
- 3) 骨折、下肢、脱臼
帖佐悦男
整形外科卒後研修Q&A(日本整形外科学会Q&A),
p97, 2006
- 4) 骨折、下肢、捻挫、靭帯損傷、関節外傷
帖佐悦男
整形外科卒後研修Q&A(日本整形外科学会Q&A),
p102-166, 2006
- 5) 症例問題
帖佐悦男
整形外科卒後研修Q&A(日本整形外科学会Q&A),
p224-324, 2006

◆原書

- 1) 高度の骨欠損のある変形膝関節に対する人工関節置換術の経験
税所幸一郎
日本リウマチ関節外科学会誌, 25:459-464, 2006
- 2) 背部弾性線維腫の手術例
浪平辰州, 野中隆史, 猪俣尚規
整形外科と災害外科, 55(2):164-166, 2006

- 3) 寛骨臼球状骨切り術の適応とその限界
長鶴義隆, 川野彰裕
Hip Joint, 32:49-54, 2006
- 4) 手術療法を施行したペルテス病症例の検討
関本朝久, 帖佐悦男, 坂本武郎, 渡邊信二, 濱田浩朗, 野崎正太郎,
前田和徳
Hip Joint, 32:293-297, 2006
- 5) 偽関節に対する交差骨切り術
渡辺 雄, 工藤勝司, 大田博人, 達城 大, 松元征徳, 山田泰之,
本部浩一, 江夏 剛
臨床整形外科, 41(12):1287-1295, 2006
- 6) NinJa を利用した関節リウマチ患者における関連整形外科手術の分析
税所幸一郎
平成 17 年度厚生労働科学研究補助金-免疫アレルギー疾患予防・
治療研究事業研究報告会抄録集:243, 2006
- 7) 関節リウマチにおける内科的治療の検証に関する研究
當間重人, 衛藤義人, 安田正之, 千葉実行, 松井利浩, 金子淳史,
税所幸一郎, ほか
平成 17 年度厚生労働科学研究補助金-免疫アレルギー疾患予防・
治療研究事業研究報告会抄録集:235-237, 2006
- 8) 過去 5 年間に当科で経験した水飛び込みによる頸椎頸髄損傷の検討
黒木浩史, 久保紳一郎, 濱中秀昭, 坂田勝美, 公文崇詞,
黒木修司, 帖佐悦男
宮崎県医師会医学会誌, 30:73-77, 2006
- 9) Comparative study of hands-on therapy with active exercises vs education with
active exercises for the management of upper back pain
Pesco Mary, 帖佐悦男, 田島直也
J Manipulative Physiol Ther, 29(3):228-235, 2006
- 10) (脊椎疾患における鑑別診断と治療法選択の根拠) 頸椎頸椎症性脊髄症 棘突起縦剖式
椎弓形成術(double door laminoplasty)の生体力学的根拠
久保紳一郎, 帖佐悦男
別冊整形外科, 50:62-68, 2006
- 11) 前・初期股関節症に対する Bernes periacetabular osteotomy
帖佐悦男
MB Orthop, 19(3):25-29, 2006

1 2) 高校国体候補選手における膝周囲筋力の評価

河原勝博, 帖佐悦男, 山本恵太郎, 田島直也, 園田典生
日本臨床スポーツ医学会誌, 14(3):339-345, 2006

1 3) 特発性側弯症に対する装具が脊柱矢状面アライメントに及ぼす影響

黒木浩史, 公文崇詞, 久保紳一郎, 帖佐悦男, 後藤英一, 田島直也
脊柱変形, 21(1):50-55, 2006

1 4) セメントレス THA 3本スパイク・セメントレス人工股関節(JOHP)の臨床成績

忽那龍雄, 大久保利通, 谷口良輔, 帖佐悦男, 古市格, 伊丹康人
日本人工関節学会誌, 36:282-283, 2006

◆症例報告

1) 家族性に半月板形態異常を認めた症例

小松奈美, 帖佐悦男, 坂本武郎, 渡邊信二, 関本朝久, 濱田浩朗,
山本恵太郎, 野崎正太郎, 前田和徳, 福嶋秀一郎
整形外科と災害外科, 55(1):95-99, 2006

2) 家族性に二層半月ならび新たな半月形態異常(separated meniscus)を認めた症例

山本恵太郎, 帖佐悦男, 小松奈美
関節鏡, 31(3):165-170, 2006

◆総 説

1) アドレノメデュリン(関節マーカーの基礎と臨床)

帖佐悦男, 濱田浩朗
リウマチ科, (35):555-558, 2006

2) Pitfall Q&A と Normal Variant 股関節

帖佐悦男
関節外科, 25(1):95-98, 2006

3) Adrenomedullin preadrenomedullin N-terminal peptide

帖佐悦男, 濱田浩朗
整形外科, 57(1):70, 2006

- 4) 診断に難渋する股関節疾患
帖佐悦男
整形・災害外科, (49):1211-1217, 2006
- 5) 変形性股関節症の関節温存手術 前・初期股関節症に対する Bernese periacetabular osteotomy
帖佐悦男
Orthopaedics, 19(36), :25-29, 2006
- 6) 股関節疾患の画像診断-最近の話題を含めて-
帖佐悦男
骨・関節・靭帯, 19(7):665-673, 2006
- 7) 変形性股関節の診断と治療
帖佐悦男
宮崎医学会誌, 30:51-60, 2006

◆学会報告

- 1) 脳性麻痺片麻痺患者に対するアキレス腱延長術後の歩行分析評価
柳園賜一郎, 福島克彦, 山口和正
第 22 回九州小児整形外科集談会, 2006, 1, 福岡
- 2) 手術療法を施行したベルテス病症例の検討
関本朝久, 帖佐悦男, 坂本武郎, 渡邊信二, 濱田浩朗, 野崎正太郎,
前田和徳
九州小児整形外科集談会, 2006, 1, 福岡
- 3) 最近経験した水飛び込みによる頸椎頸髄損傷の3例
黒木浩史, 久保紳一郎, 濱中秀昭, 坂田勝美, 公文崇詞, 上通一師,
黒木修司, 帖佐悦男
第 27 回宮崎救急医学会, 2006, 2, 宮崎
- 4) 当科における膝前十字靭帯再建術後の治療成績 一筋力評価を中心に一
河原勝博, 帖佐悦男, 山本恵太郎, 鳥取部光司, 中村真由美, 田島直也,
園田典生, 樋口潤一
第 28 回 宮崎県リハビリテーション研究会, 2006, 2, 宮崎
- 5) 認知症を有する大腿骨頸部骨折術後の ADL 改善度に関して～FIMを用いての検討～
迫田勇一郎, 時任完佳, 中西佑治, 速見智朗, 小牧亘, 田邊龍樹, 濱田浩朗
第 28 回宮崎リハビリテーション研究会, 2006, 2, 宮崎

- 6) 口腔ケアの細菌学的検討—イソジン水と紅茶による口腔ケアの比較検討—
福山恵子, 平 恵美, 平山和美, 浪平辰州, 田中誠, 安原一恵
宮崎リハビリテーション研究会, 2006, 2, 宮崎
- 7) 脳性麻痺片麻痺患者に対する歩行分析評価
柳園賜一郎, 福島克彦, 吉川大輔, 山口和正
宮崎リハビリテーション研究会, 2006, 2, 宮崎
- 8) 重症阻血下肢に A/K 切断術施行した 19 例の合併症と予後
小藺敬洋, 浪平辰州, 市原久史
宮崎リハビリテーション研究会, 2006, 2, 宮崎
- 9) 薬剤治療抵抗性関節リウマチ患者に対する LCAP 療法の有用性の検討—ACR コアセットと DAS28 による評価—
日高利彦, 横山勝人, 南 寛之, 松本 亮, 前田啓一, 野村かおり, 椎屋智美,
宮園由美, 花岡保雄, 黒田 宏, 篠原典夫, 濱砂重仁
第 21 回宮崎県リウマチ研究会・第 14 回宮崎リウマチのケア研究会,
2006, 2, 宮崎
- 1 0) 臨床に役立つ下肢の画像診断
帖佐悦男
熊本県臨床整形外科医会, 2006, 2, 熊本
- 1 1) スポーツドクターとくに帯同ドクターの役割
田島卓也, 帖佐悦男, 山本恵太郎, 柏木輝行, 矢野良英
第 34 回宮崎県スポーツ医科学研究会, 2006, 3, 宮崎
- 1 2) 柔道による膝関節脱臼の 1 例
小島岳史, 帖佐悦男, 山本恵太郎
第 34 回宮崎県スポーツ医学研究会, 2006, 3, 宮崎
- 1 3) 当院における膝前十字靭帯再建術について
園田典生, 村上恵美, 帖佐悦男
第 34 回宮崎県スポーツ医学研究会, 2006, 3, 宮崎
- 1 4) 反復性肩関節前方不安定症に対する鏡視下手術—コンタクトスポーツ選手の追加補強手術—
井上篤, 田島直也, 後藤啓輔, 小松奈美, 山本恵太郎
第 34 回宮崎県スポーツ医学研究会, 2006, 3, 宮崎
- 1 5) CHART 式評価法を用いた関節リウマチ患者に対する介護に関する検討
鳥取部光司, 帖佐悦男, 濱田浩朗, 野崎正太郎, 坂本武郎, 税所幸一郎
第 43 回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2006, 3, 東京

- 1 6) 当科における RA 頸椎病変の手術成績
濱中秀昭, 久保紳一郎, 黒木浩史, 公文崇詞, 後藤英一, 上通一師,
黒木修司, 小牧ゆか, 帖佐悦男
第 31 回九州リウマチ学会, 2006, 3, 宮崎
- 1 7) 人工膝関節再置換術の経験
税所幸一郎, 内田秀穂, 村上 弘, 鳥取部光司, 帖佐悦男
第 31 回九州リウマチ学会, 2006, 3, 宮崎
- 1 8) 人工関節再置換術の経験
税所幸一郎, 内田秀穂, 村上弘, 鳥取部光司
第 31 回九州リウマチ学会, 2006, 3, 宮崎
- 1 9) 関節リウマチ患者に対する白血球除去療法の治療成績-ACR アセットおよび DAS28 での評価-
日高利彦, 黒田 宏, 篠原典夫
第 31 回九州リウマチ学会, 2006, 3, 宮崎
- 2 0) 低 γ グロブリン血症に多発関節炎を合併した1例
税所幸一郎, 内田秀穂, 村上弘, 前田宏一
第 31 回九州リウマチ学会, 2006, 3, 宮崎
- 2 1) 当院リハビリテーション部のスポーツ現場とのかかわり—理学療法士としてのトレーナー活動—
尾崎勝博, 野崎東病院リハビリテーション部スタッフ一同, 田島直也, 井上 篤
第 34 回宮崎県スポーツ医学研究会, 2006, 3, 宮崎
- 2 2) ユース年代の日本代表チームにおけるメディカルサポート
樋口潤一
第 34 回宮崎県スポーツ医学研究会, 2006, 3, 宮崎
- 2 3) 薬剤治療抵抗性関節リウマチ患者に対する白血球除去療法のヘルパーT細胞P糖タンパク発現に
及ぼす影響
日高利彦, 黒田 宏, 篠原典夫, 岡田 真, 片原田晃士, 中島正裕, 鈴木王洋
第 50 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2006, 4, 長崎
- 2 4) 薬剤治療抵抗性関節リウマチ患者にたいする白血球除去療法の長期効果
日高利彦, 黒田 宏, 篠原典夫
第 50 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2006, 4, 長崎
- 2 5) NinJa(iR-net)による関節リウマチデータベースを利用した関節リウマチ関連整形外科手術の分析
税所幸一郎
第 50 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2006, 4, 長崎

- 26) 関節リウマチの早期診断 CARF 値による関節炎症例の検討
船元太郎, 濱田浩朗, 帖佐悦男, 坂本武郎, 関本朝久
第50回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2006, 4, 長崎
- 27) 軟骨の変性と再生機序 ヒト軟骨細胞におけるアドレノメデュリンの発現及び脱分化における産生の増加
濱田浩朗, 帖佐悦男, 坂本武郎, 関本朝久, 船元太郎
第50回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2006, 4, 長崎
- 28) 特発性側弯症に対する装具療法における装具装着状況
黒木浩史, 公文崇詞, 後藤英一, 久保紳一郎, 帖佐悦男, 田島直也
第79回日本整形外科学会学術集会, 2006, 5, 横浜
- 29) 進行期股関節症の治療 関節温存か人工関節か? 進行期股関節症に対する手術適応
帖佐悦男
第79回日本整形外科学会学術総会, 2006, 5, 横浜
- 30) False Profile 像撮影法の確立
坂本武郎, 帖佐悦男, 渡邊信二, 関本朝久, 濱田浩朗, 野崎正太郎,
前田和徳, 紫垣誠哉, 工藤正喜
第79回日本整形外科学会学術総会, 2006, 5, 横浜
- 31) 脳卒中患者の入院時の体幹機能と運動障害による退院時の日常生活活動の予測
田中正一, 江頭有朋, 末永英文, 有馬寿之, 足立桂子
第43回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2006, 6, 東京
- 32) 上位頸椎後方再建手術の治療経験
藤本 徹, 瀬井 章, 栗原典近
第65回西日本脊椎研究会, 2006, 6, 福岡
- 33) 脳性麻痺片麻痺患者に対する歩行分析評価
柳園賜一郎, 吉川大輔, 福島克彦, 山口和正
第111回西日本整形外科・災害外科学会, 2006, 6, 福岡
- 34) 正常小児歩行の検討～三次元歩行分析装置を用いて～
吉川大輔, 柳園賜一郎, 福島克彦, 山口和正
第111回西日本整形外科・災害外科学会, 2006, 6, 福岡
- 35) Mycobacterium marinum による非定型抗酸菌症の1例
西里徳重, 小田勇一郎, 栗原 典近, 村上 弘, 村上 恵美, 畠 邦晃,
崎瀨 智美
第29回日本骨・関節感染症学会, 2006, 6, 東京

- 3 6) 当科における膝前十字靭帯再建術後の筋力回復について
河原勝博, 帖佐悦男, 山本恵太郎, 田島直也, 園田典生, 樋口潤一
第 32 回日本整形外科スポーツ医学会, 2006, 6, 沖縄
- 3 7) 棘突起縦割式脊柱管拡大術の術後成績と HA スペースの改良
濱中秀昭, 帖佐悦男, 久保紳一郎, 黒木浩史, 花堂祥治, 桐谷 力, 黒木修司
第 65 回西日本脊椎研究会, 2006, 6, 福岡
- 3 8) 椎弓根スクリューを用いた頸椎後方固定術の経験
久保紳一郎, 帖佐悦男, 黒木浩史, 花堂祥治, 濱中秀昭, 桐谷 力, 黒木修司
第 65 回西日本脊椎研究会, 2006, 6, 福岡
- 3 9) 棘突起縦割式脊柱管拡大術の術後成績と HA スペースの改良
濱中秀昭, 帖佐悦男, 久保紳一郎, 黒木浩史, 花堂祥治, 桐谷力, 黒木修司
第 65 回西日本脊椎研究会, 2006, 6, 福岡
- 4 0) 椎弓根スクリューを用いた頸椎後方固定術の経験
久保紳一郎, 帖佐悦男, 黒木浩史, 花堂祥治, 濱中秀昭, 桐谷力, 黒木修司
第 65 回西日本脊椎研究会, 2006, 6, 福岡
- 4 1) 関節リウマチ患者の CHART による社会的不利の検討
鳥取部光司, 帖佐悦男, 濱田浩朗, 野崎正太郎, 坂本武郎, 税所幸一郎
第 43 回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2006, 6, 東京
- 4 2) CHART 式評価法を用いた関節リウマチ患者に対する介護に関する検討
野崎正太郎, 帖佐悦男, 鳥取部光司, 濱田浩朗, 坂本武郎
第 43 回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2006, 6, 東京
- 4 3) ALS と診断された CSM の一例
後藤啓輔, 井上 篤, 小松奈美, 田島直也
第 52 回宮崎整形外科懇話会, 2006, 7, 宮崎
- 4 4) 前腕切断を余儀なくされた橈骨遠位端骨巨細胞腫の1例
市原久史, 浪平辰州, 小蘭敬洋
第 52 回宮崎整形外科懇話会, 2006, 7, 宮崎
- 4 5) 異所性石灰沈着により生じた軟部腫瘤の治療経験
内田秀穂, 税所幸一郎, 江夏 剛, 村上 弘
第 52 回宮崎整形外科懇話会, 2006, 7, 宮崎
- 4 6) 当院における手術後の創部管理について
川添浩史, 森 治樹
第 52 回宮崎整形外科懇話会, 2006, 7, 宮崎

- 4 7) 橈骨遠位端骨折に対する Distal Radius Plate の使用経験
三橋龍馬, 神蘭 豊, 渡辺正一, 松岡 篤
第 52 回宮崎整形外科懇話会, 2006, 7, 宮崎
- 4 8) 大腿骨頸部骨折に対する Twin Hook CHS の使用経験
福元洋一, 黒田 宏, 深野木快土, 福島克彦
第 52 回宮崎整形外科懇話会, 2006, 7, 宮崎
- 4 9) 睡眠剤大量服用後に発症した前腕・下腿コンパートメント症候群の1例—横紋筋融解症、
Coma Blister 合併例—
村上恵美, 小田勇一郎, 栗原典近, 村上 弘, 西里徳重, 畠 邦晃, 崎濱智美
第 52 回宮崎整形外科懇話会, 2006, 7, 宮崎
- 5 0) Blount 病に対する観血的治療経験
上通一師, 長鶴義隆, 松岡知己, 川野彰裕
第 52 回宮崎整形外科懇話会, 2006, 7, 宮崎
- 5 1) 裸足歩行可能な二分脊椎患者に対する歩行分析評価
吉川大輔, 柳園賜一郎, 山口和正
第 52 回宮崎整形外科懇話会, 2006, 7, 宮崎
- 5 2) 長期経過観察しえた骨形成不全患者の1例
柳園賜一郎, 吉川大輔, 山口和正
第 52 回宮崎整形外科懇話会, 2006, 7, 宮崎
- 5 3) 膝ハムストリングを用いた足関節外側靭帯再建術の小経験
公文崇詞, 園田典生, 村上恵美, 帖佐悦男
第52回宮崎整形外科懇話会, 2006, 7, 宮崎
- 5 4) 足趾の短縮・変形に対し創外固定器による延長を行った3例
渡邊信二, 帖佐悦男, 坂本武郎, 関本朝久, 濱田浩朗, 野崎正太郎,
前田和徳, 中村嘉宏, 船元太郎, 比嘉聖, 大江梨紗
第52回宮崎整形外科懇話会, 2006, 7, 宮崎
- 5 5) 当科における膝前十字靭帯再建術後の治療成績 —筋力回復を中心に—
河原勝博, 帖佐悦男, 鳥取部光司, 田島直也, 樋口潤一
第 18 回 日本運動器リハビリテーション学会, 2006, 7, 岡山
- 5 6) MX-2000 の使用経験
坂本武郎, 帖佐悦男, 渡邊信二, 関本朝久, 濱田浩朗, 野崎正太郎,
前田和徳, 中村嘉宏, 船元太郎
第 15 回MX人工股関節研究会, 2006, 7, 宮崎

- 5 7) Sciatica を伴った Exertional Rhabdomyolysis の一例
魏 國雄, 大江幸政
第 18 回 日本整形外科超音波研究会, 2006, 7, 新潟
- 5 8) 当院における Gamma3 の手術手技
松岡 篤, 神蘭 豊, 渡辺正一, 黒木修司
骨折治療フォーラム, 2006, 7, 東京
- 5 9) 外傷後 ARDS の一救命例
中村嘉宏, 帖佐悦男, 野崎正太郎, 芦谷淳一
第28回宮崎救急医学会, 2006, 8, 都城
- 6 0) GFTactivator inhibitor typeI(hall)の転写制御機構の解析
小牧 亘
第65回日本癌学会学術総会, 2006, 9, 横浜
- 6 1) 市民の森病院におけるタクロリムスの短期成績
日高利彦, 黒田 宏, 篠原典夫
第32回九州リウマチ学会, 2006, 9, 熊本
- 6 2) インフリキシマブ治療中のRA患者における関節手術の安全性について検討
東野通志, 友田邦彦, 中村 正, 東 修一, 大平 卓
第32回九州リウマチ学会, 2006, 9, 熊本
- 6 3) 関節リウマチ患者に対する白血球除去療法では stage の早い症例に長期効果が期待できる
日高利彦, 黒田 宏, 篠原典夫
第32回九州リウマチ学会, 2006, 9, 熊本
- 6 4) NinJa を利用した関節リウマチ関連整形外科手術の検討
税所幸一郎, 内田秀穂, 村上 弘, 江夏 剛
第60回国立病院総合医学会, 2006, 9, 京都
- 6 5) 当科におけるリン産カルシウム骨ペーストの使用経験
渡邊信二
第 3 回宮崎バイオアクティブペースト研究会, 2006, 9, 宮崎
- 6 6) 保存的療法を施行したペルテス病症例の検討
関本朝久, 帖佐悦男, 坂本武郎, 渡邊信二, 濱田浩朗, 野崎正太郎, 前田和徳,
中村嘉宏, 船元太郎
第 33 回日本股関節学会, 2006, 10, 東京

- 67) 股関節の手術的脱臼法-術後5年以上経過例-
帖佐悦男, 坂本武郎, 渡邊信二, 関本朝久, 濱田浩朗, 野崎正太郎, 前田和徳,
中村嘉宏, 船元太郎
第33回日本股関節学会学術集会, 2006, 10, 東京
- 68) 大腿骨壊死に対するセメント充填補強術
渡邊信二, 帖佐悦男, 坂本武郎, 関本朝久, 前田和徳
第33回日本股関節学会学術集会, 2006, 10, 東京
- 69) 進行期股関節症に対する寛骨白骨切り術の適応限界-特に, 骨嚢胞(1.5cm以上)を伴う症例を
中心として
帖佐悦男, 坂本武郎, 渡邊信二, 関本朝久, 濱田浩朗, 野崎正太郎,
前田和徳, 中村嘉宏, 船元太郎
第33回日本股関節学会学術集会, 2006, 10, 東京
- 70) 股関節における白蓋被覆状態の検討
前田和徳, 帖佐悦男, 坂本武郎, 渡邊信二, 関本朝久, 濱田浩朗,
野崎正太郎, 中村嘉宏
第33回日本股関節学会学術集会, 2006, 10, 東京
- 71) 3D-CTでの股関節症に対するX線学的評価の試み
松岡知己, 長鶴義隆, 川野彰裕, 上通一師
第33回日本股関節学会学術集会, 2006, 10, 東京
- 72) 人工膝関節置換後に大腿骨顆上骨折が発生した4症例
田辺 龍樹, 小牧一麿, 小牧 亘, 本部 浩一
第112回西日本整形・災害外科学会, 2006, 10, 鳥取
- 73) 脊柱側弯症検診とその課題
田島直也
第40回日本側弯症学会, 2006, 11, 京都
- 74) 装具療法施行中の特発性側弯症患者における装具装着状況の検討
黒木浩史, 久保紳一郎, 帖佐悦男, 田島直也
第40回日本側弯症学会, 2006, 11, 京都
- 75) アンチドーピングに関するアンケート調査
山本恵太郎, 帖佐悦男, 河原勝博, 田島卓也
第17回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 2006, 11, 新潟

- 7 6) 宮崎県における少年選手の血液性状についての検討 宮崎県における少年トップアスリートの種目特性—血液検査—
河原勝博, 帖佐悦男, 山本恵太郎, 田島卓也, 田島直也, 園田典生
第 17 回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 2006, 11, 新潟
- 7 7) 有限要素法による変形性股関節症の力学的検討
結城祥一, 帖佐悦男, 鳥取部光司, 渡邊信二
第33回日本臨床バイオメカニクス学会, 2006, 11, 新潟
- 7 8) 人工膝関節置換術後感染と難治性の化膿性膝関節炎に対する切除関節形成術による治療経験
西里徳重, 小田勇一郎, 栗原典近, 村上 弘, 村上恵美, 畠 邦晃, 崎濱智美
第 34 回日本リウマチ・関節外科学会, 2006, 11, 新潟
- 7 9) 人工関節再置換術の検討-臼蓋側, 3年以上経過例-
帖佐悦男, 坂本武郎, 渡邊信二, 関本朝久, 濱田浩朗, 前田和徳,
野崎正太郎, 中村嘉宏, 船元太郎
第34回日本リウマチ・関節外科学会, 2006, 11, 新潟
- 8 0) Scorpio HA コーティング TKA の多施設前向き調査
池田耕太郎, 福林徹, 金森章浩, 立花陽明, 中川研二, 和田真, 岩佐潤二,
米倉暁彦, 帖佐悦男
第34回日本リウマチ・関節外科学会, 2006, 11, 新潟
- 8 1) 肩関節脱臼後に腋窩神経麻痺を伴った腱板広範囲断裂の治療経験
石田康行, 帖佐悦男, 矢野浩明, 山本恵太郎, 河原勝博, 田島卓也,
小牧ゆか, 樋口誠二, 海田博志
第112回西日本整形災害外科学会, 2006, 11, 米子
- 8 2) 骨線維性異形成の治療経験(β -TCPを用いて)
比嘉聖, 帖佐悦男, 坂本武郎, 渡邊信二, 関本朝久, 濱田浩朗, 野崎正太郎,
前田和徳, 中村嘉宏, 船元太郎
第112回西日本整形・災害外科学会, 2006, 11, 米子
- 8 3) MRIにて腫瘍性病変が疑われた胸椎圧迫骨折の一例
福田一, 久保紳一郎, 黒木浩史, 花堂祥治, 濱中秀昭, 桐谷力, 黒木修司,
菅田耕, 河野勇泰喜, 帖佐悦男
第112回西日本整形・災害外科学会, 2006, 11, 米子
- 8 4) 直腸肛門内圧測定が予後予測に有用であった仙骨骨折の1例
菅田耕, 帖佐悦男, 久保紳一郎, 黒木浩史, 花堂祥治, 濱中秀昭, 上通一師,
桐谷力, 甲斐糸乃, 福田一, 河野勇泰喜, 佛坂正幸
第112回西日本整形・災害外科学会, 2006, 11, 米子

- 85) 腰部脊柱管狭窄症に対する顕微鏡視下拡大開窓術の術後成績
桐谷力, 久保紳一郎, 黒木浩史, 花堂祥治, 濱中秀昭, 甲斐糸乃, 帖佐悦男
第66回西日本脊椎研究会, 2006, 11, 広島
- 86) 右肩関節結核に伴う腋窩皮膚腺病の1例
菊池英維, 緒方克己, 矢野浩明, 帖佐悦男, 瀬戸山充
第58回日本皮膚科学会西部支部学術大会, 2006, 11, 佐賀
- 87) 大腿骨頭すべり症の治療経験
川野彰裕, 長鶴義隆, 松岡知己, 上通一師
第17回日本小児整形外科学会学術集会, 2006, 12, 福岡
- 88) 裸足歩行可能な二分脊椎患者に対する歩行分析評価
柳園賜一郎, 吉川大輔, 山口和正
第17回日本小児整形外科学会学術集会, 2006, 12, 福岡
- 89) 足趾の短縮に対し創外固定器による延長を行った3例
渡邊信二, 帖佐悦男, 関本朝久
第17回日本小児整形外科学会学術集会, 2006, 12, 福岡
- 90) 手術療法を施行したベルテス病症例の検討
関本朝久, 帖佐悦男, 坂本武郎, 渡邊信二, 濱田浩朗, 野崎正太郎, 前田和徳,
中村嘉宏, 船元太郎
日本小児整形外科学会学術集会, 2006, 12, 福岡
- 91) ラグビー日本代表への帯同経験および帯同ドクターの役割について
田島卓也, 帖佐悦男, 山本恵太郎
九州・山口スポーツ医科学研究会, 2006, 12, 福岡
- 92) 医学部ラグビー部員引退後の頸椎変化
河野勇泰喜, 帖佐悦男, 山本恵太郎, 田島卓也
第19回九州・山口スポーツ医・科学学会, 2006, 12, 福岡
- 93) ラグビー競技における宮崎大学式大会安全度
中村嘉宏, 帖佐悦男, 山本恵太郎, 田島卓也
第19回九州・山口スポーツ医・科学学会, 2006, 12, 福岡
- 94) 骨線維性異形成(OFD)に対し巨大骨欠損を β -TCPのみにて補填した3例
比嘉聖, 帖佐悦男, 坂本武郎, 渡邊信二, 関本朝久, 濱田浩朗, 野崎正太郎,
前田和徳, 中村嘉宏, 船元太郎
第53回宮崎整形科懇話会, 2006, 12, 宮崎

- 9 5) 肩甲棘窩嚢腫による肩甲上神経麻痺に対し鏡視下手術を行った1例
小松奈美, 井上篤, 後藤啓輔, 田島直也, 山本恵太郎
第53回宮崎整形外科懇話会, 2006, 12, 宮崎
- 9 6) 陳旧性アキレス腱皮下断裂の1例
塩月康弘, 増田 寛
第53回宮崎整形外科懇話会, 2006, 12, 宮崎
- 9 7) 足関節 Bosworth 骨折の治療経験
福元洋一, 黒田 宏, 内田秀穂, 深野木快士, 栄 四男
第53回宮崎整形外科懇話会, 2006, 12, 宮崎
- 9 8) 腰椎骨折に対し Universal Spine System を用いて後方固定を行った小経験
栗原典近, 崎濱智美, 畠 邦晃, 西里徳重, 村上 弘, 河野 立, 小田勇一郎
第53回宮崎整形外科懇話会, 2006, 12, 宮崎
- 9 9) 壊死性軟部組織感染症の一例
猪俣尚規, 堀見克礼, 安藤 徹
第53回宮崎整形外科懇話会, 2006, 12, 宮崎
- 100) 化膿性膝関節炎に対する開放運動療法の経験
浪平辰州, 市原久史, 小菌敬洋
第53回宮崎整形外科懇話会, 2006, 12, 宮崎
- 101) 考案した緩衝体を使用した枕、ヒッププロテクター、靴の中敷と褥創予防の試作品
平部久彬
第53回宮崎整形外科懇話会, 2006, 12, 宮崎
- 102) 脳性麻痺片麻痺患者の歩行分析評価
吉川大輔, 柳園賜一郎, 山口和正
第53回宮崎整形外科懇話会, 2006, 12, 宮崎
- 103) 8年間放置していた色素性絨毛結節性滑膜炎の一例
江夏 剛, 税所幸一郎, 有住裕一
第53回宮崎整形外科懇話会, 2006, 12, 宮崎
- 104) 非分泌型多発性骨髄腫による両側上腕骨骨幹部病的骨折の1例
吉田尚紀, 柏木輝行, 矢野良英
第53回宮崎整形外科懇話会, 2006, 12, 宮崎
- 105) 骨融解像を認め診断に難渋した血液疾患の2例
崎濱智美, 小田勇一郎, 栗原典近, 河野 立, 村上 弘, 西里徳重, 畠 邦晃
第53回宮崎整形外科懇話会, 2006, 12, 宮崎

106) 病的骨折より悪性血液疾患が発見された3例

上通一師, 長鶴義隆, 松岡知己, 川野彰裕
第 53 回宮崎整形外科懇話会, 2006, 12, 宮崎

◆講 演

- 1) 関節リウマチの治療と私たちの知見
帖佐悦男
第 13 回宮崎リウマチ医の会, 2006, 1, 宮崎
- 2) 成長期のスポーツ傷害
山本恵太郎
平成 17 年度宮崎県医師会健康スポーツ医学セミナー, 2006, 1, 宮崎
- 3) 成長期のスポーツ傷害
黒木浩史
平成 17 年度宮崎県医師会健康スポーツ医学セミナー, 2006, 1, 宮崎
- 4) 当院におけるリウマチ治療とレミケード使用
税所幸一郎
レミケード学術講演会, 2006, 2, 都城
- 5) 脊椎疾患手術後の症状回復に対するリマプロストの効果検討
黒木修司
宮崎県腰部脊柱管狭窄症フォーラム, 2006, 2, 宮崎
- 6) 腰部椎間板ヘルニアを疑われた Churg-Strauss 症候群の1例
桐谷力, 久保紳一郎, 黒木浩史, 濱中秀昭, 公文崇詞, 後藤英一,
黒木修司, 小牧ゆか, 帖佐悦男, 今井光一, 杉本精一郎, 中里雅光
第 20 回宮崎痛みの研究会, 2006, 3, 宮崎
- 7) 知っておきたい整形外科疾患
帖佐悦男
第 77 回延岡薬学会・第 50 回県北薬学セミナー, 2006, 4, 延岡
- 8) 成長期のスポーツ障害
帖佐悦男
第 23 回県北関節を語る会, 2006, 5, 佐世保

- 9) 股関節疾患の画像診断と治療-診断を中心に-
帖佐悦男
第6回北海道関節外科セミナー, 2006, 5, 札幌
- 10) リウマチ治療について
税所幸一郎
第13回国立病院機構都城病院合同勉強会, 2006, 7, 都城
- 11) スポーツと共に-宮崎大学医学部整形外科学教室の取り組み-
帖佐悦男
モーラステープ発売10周年記念, 2006, 7, 宮崎
- 12) こどものスポーツ傷害
山本恵太郎
平成18年度宮崎市郡小児科医会, 2006, 8, 宮崎
- 13) RAに対する人工膝関節置換術
税所幸一郎
第81回大分県リウマチ懇話会, 2006, 9, 大分
- 14) 日常遭遇する整形外科疾患-骨粗鬆症と災害-
帖佐悦男
江南医療連携の会, 2006, 9, 宮崎
- 15) 股関節疾患の画像診断と治療
帖佐悦男
北陸整形外科集談会(第175回), 2006, 9, 金沢
- 16) 骨・筋肉と背骨・膝などの運動器疾患について
帖佐悦男
疾病予防及び健康増進対策セミナー, 2006, 9, 宮崎
- 17) 骨粗鬆症の診断と治療-最新的话题を含めて-
帖佐悦男
佐土原医師会講演会, 2006, 9, 宮崎
- 18) こども(成長期)の身体特性ならびスポーツ傷害
山本恵太郎
骨と関節の日 市民公開講座, 2006, 10, 宮崎
- 19) 見逃すと困る運動器疾患
帖佐悦男
運動器の10年 骨と関節の日, 2006, 10, 宮崎

20) 骨粗鬆症の最近の話題

松本英裕

骨と関節の日 市民公開講座, 2006, 10, 宮崎

21) 関節リウマチの早期診断と最近の治療の話題

大平 卓

骨と関節の日 市民公開講座, 2006, 10, 宮崎

22) 都城病院におけるリウマチ治療とレミケード使用実際

税所幸一郎

第2回都城レミケード研究会, 2006, 10, 都城

23) 関節リウマチに対する人工膝関節置換術

税所幸一郎

第24回リウマチ移動教室, 2006, 10, 都城

24) 野球選手の傷害予防とコンディショニングについて

帖佐悦男

宮崎県高野連部長・監督研修会, 2006, 11, 宮崎

25) 腰痛症

税所幸一郎

第6回市民のための健康講座, 2006, 12, 都城

編集後記

伊勢先生に退職にあたってを御寄稿いただきました。忙しさのあまり忘れかけていたことを気づかせていただきました。ありがとうございました。これまでお疲れ様でしたと共に今後とも御指導のほどよろしくお願いいたします。

今回はメインテーマなしということで編集委員の独断で我々が話を聞きたい先生方に御寄稿いただきました。すべて、メッセージの込められた内容で目に狂いはなかったと自負しています。

査読していて感動のあまり涙した文章がありました。いつの間にか年を重ね、守るべき家族を持った私にストレートに入り込む内容でした。感動を与えていただいたことに感謝いたします。

新入会員紹介として賛助会員、菅田先生、福島先生、正会員、梅崎先生、日吉先生、深尾先生、山口先生に御入会いただき自己紹介を御寄稿していただきました。

その他、奨励賞、関連病院近況、同門会、医局行事などがあります。皆様には隅々まで目を通していただけると幸いです。

最後に何かと忙しい中、本誌に御寄稿いただいた諸先生方に陳謝いたします。

平成20年5月吉日

渡 邊 信 二
石 田 康 行 (文貴)
川 野 実 夏

宮崎大学医学部整形外科

同 門 会 誌

発 行 日 平成20年5月

発 行 者 宮崎大学医学部整形外科学教室同門会

編集責任者 石 田 康 行

印 刷 所 身体障害者就労支援施設 あゆみの里